

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

令和5年度事業計画

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

【令和5年度経営の基本的考え方】

令和5年度は、3月に感染防止策としてのマスクの着用の考え方が見直されるなど、いわゆるウィズコロナにシフトしています。当財団においても、施設運営を平常化していく必要があります。

コロナ禍に本格化した博物館資料のデジタル化、展示解説動画の配信、オンラインによる講演会の開催、SNSを活用した情報発信などデジタル化の取組を推進するとともに、学校の受入をはじめとした博物館への集客を強化します。インバウンドを意識した施設案内・展示解説の多言語化、施設のバリアフリー化などを横浜市とともに進めます。

一方、令和5年度は、歴史博物館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の3館で空調設備の入替など施設の長寿命化工事による長期休館が予定されています。休館時のアウトリーチ活動を通じた博物館の魅力発信や、館同士、他団体等と連携した調査研究、普及啓発等の取組を積極的に進めます。

未来の横浜を担う児童生徒の郷土愛の醸成に向けては、博物館への児童生徒の受入のほか、訪問授業の実施、授業で使える動画コンテンツの充実など学校連携を強化します。

令和5年は関東大震災から100年の節目を迎え、開港資料館と都市発展記念館が共同で特別展を開催します。各館では、時宜に即した展示を柔軟に展開するとともに、効果的な広報にも力を入れていきます。

横浜市では、文化財の保存・活用に関する基本的なアクション・プランである「文化財保存活用地域計画」の策定作業が進められています。当財団としても、引き続き横浜市に協力していきます。

「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」は3年目に入り、旧英国総領事館である旧館の整備が本格化することや、デジタルアーカイブの一部運用が開始されます。引き続き横浜市の関係部署や共同申請者と連携し、事業を推進します。

このほか、長寿命化工事を円滑に進めるための資料や職員の引越対応をはじめ、老朽化等による施設の修繕や博物館の収蔵庫の増設検討などの安全・安心な施設管理、令和7年1月末に開館30周年を迎える歴史博物館の記念行事の検討、三殿台考古館の再整備に向けた検討などの課題について、横浜市をはじめとした関係機関、団体等と検討を進めます。

上記取組の推進、課題解決に向け、大学や研究機関など他団体と連携した取組を進めるとともに、事業に必要な財源確保の一環として、国等の補助金・助成金の獲得、クラウドファンディングなどの協賛金、寄付金の受け入れなど外部資金の獲得に力を入れていきます。

このほか、財団職員のスキルアップに向けた研修の充実、職場環境の効率化を図る勤怠管理システムの導入にも取り組んでいきます。

こうした観点を踏まえ、令和5年度は法人経営を進めていきます。

【令和5年度経営における重点取組】

■デジタル化・多言語化・バリアフリー化の取組を一層推進

- ・資料のデジタル化、展示解説動画等の配信、オンライン講演会・講座等の開催、オンラインショップの充実
- ・施設案内・展示解説・施設ホームページの多言語化
- ・開港資料館旧館をはじめとした施設のバリアフリー化

■休館時のアウトリーチ活動を通じた博物館の魅力発信

■館同士、他団体等と連携した調査研究、普及啓発の推進

■学校連携

- ・学芸員・エデュケーターによる訪問授業、出張講座等の実施
- ・授業の補助教材等となる動画コンテンツ・素材の制作・発信

■時宜に適した企画展示の展開等

- ・関東大震災100年など、社会の動きを見定めながら、企画展示を柔軟に展開
- ・併せて、関連するミニ展示等の併催等による展示の魅力アップ

■文化財保存活用地域計画策定への協力

■横浜開港資料館における文化観光拠点計画の推進

- ・旧館整備、付属棟（旧門番所）に整備した複合施設の運営開始、デジタルアーカイブの一部運用開始など事業の推進
- ・エリア内施設間の一体的連携による効果的事業展開

■安全・安心な施設管理・運営

- ・適時的確な施設修繕対応
- ・施設ごとの危機管理マニュアルに基づく運用
- ・所蔵文化財等の被災対策を含めた収蔵庫の増設検討

■補助金・協賛金等、外部資金の積極的獲得

- ・事業推進に寄与する国費・協賛金・寄付金等の獲得推進
- ・収益事業における収益の拡充と出費の縮減

■職員研修の充実と職場環境の効率化

- ・財団の基本情報、公益法人会計等の基礎研修、財団職員の実務に即した研修の実施
- ・勤怠システムの活用による働きやすい環境整備
- ・一体的な組織づくりの推進

参考：法人設立趣旨（概略）

■目的

公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団は、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちのあゆみや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び、市民文化の発展に寄与します。

■基本方針

- ・法人は、上記の目的に基づき、指定管理事業、埋蔵文化財センターや史跡管理などの文化財業務委託事業、市史資料委託事業、組織管理運営を担う本部事業に一体的に取り組めます。
- ・文化財行政の一翼として、これまで果たしてきた役割を着実に継続していきます。
- ・横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保存、保護に一体的・継続的に取り組めます。また、埋蔵文化財の発掘を通し、遺跡や遺物の調査、研究、保存、保護に努めます。
- ・文化財や歴史資料を活用し、調査・研究の成果を広く市民に発信しながら普及啓発に努めます。また、歴史資料の閲覧、歴史研究に関する助言及び指導などに努め、市民の学びを支えていきます。
- ・市民協働、地域連携の事業を推進し、市民や地域に開かれた博物館を目指します。
- ・学校連携を充実し、児童・生徒の学びを支えていきます。
- ・横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していくという公益的使命を立ち位置とし、公益財団法人として公益性のある事業を展開すると共に、効果的・効率的な事業の展開及び経営力の向上を図りながら組織運営に取り組めます。

I 本部事業

〔取組の全体像〕

法人本部では、組織が担う使命を職員、各管理運営施設が一体となって遂行できるよう、公益財団法人、指定管理者、市外郭団体という3つの顔を持つ組織として求められることを踏まえ、理事会等で決定された経営の方向性を全体に示し、その使命を達成できるよう事業推進の企画調整、組織運営を進めます。

また、組織を支える人材の育成に向け、効果的・実践的な研修を実施することや、適正な人材配置等人事をしっかりと運営し組織力をアップします。

公益的役割を適正に果たしていくため、理事会・評議員会を適時・適切に開催・運営し、その結果等を遅滞なく神奈川県に報告するなど、法に基づく組織運営を行います。また、これら必置の会議体を補完し、主に実務上の諸課題に対応していくための各種会議の運営を行います。

また、コンプライアンスの意識を組織内に浸透させるとともに、人事労務の管理運営、予算の執行管理などを行い、円滑な組織経営を支えます。

施設設備の老朽化や故障、災害対応など、各管理施設の維持管理と来館者・職員の安心・安全を守る取組と所蔵文化財の維持・保全を図るため、横浜市所管課と連携し取組を進めていきます。

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

（1）円滑な組織管理・運営

- ① 効果的・実践的な研修の実施
- ② 職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施
- ③ 組織内役員会議、課長会議、担当係長会議等の諸会議の開催、各種規則整備
- ④ 情報システム管理
 - 1-情報システム機器の保守・管理
 - 2-情報セキュリティに関する啓発・研修
 - 3-財団内システムの円滑な運用
- ⑤ 横浜市所管課との連絡調整

（2）人事・労務管理

- ① 職員の採用、異動等人事
- ② 就業規則他諸規則の整備及び運用
- ③ 給与、社会保険、税金関係等の処理
- ④ 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策
- ⑤ 職員メンタルヘルスの支援

（3）予算執行管理

- ① 当該年度の収入の見通し等、法人を取り巻く社会経済情勢を全体で共有し、各管理運営施設単独事業、横断・連携事業、全体で取り組む事業など、計画的、戦略的な予算編成・執行管理
- ② 補助金・寄附金・協賛金確保に向けた企画調整

(4) 理事会・評議員会の運営

- ① 定期開催（理事会：4回／年・評議員会：2回／年）
- ② 重要課題に対応する臨時会開催（不定期）
- ③ 神奈川県への報告等、公益法人の責務の実行

(5) 全体事業企画調整・推進

- ① 協約目標の共有など各管理施設間の共通認識形成
- ② 組織間など多様な連携創出
- ③ P D C Aサイクルによる企画展の実施、成果・課題を今後の事業にフィードバック
- ④ 市民協働による事業の実施
- ⑤ 法人ホームページの管理・運営を通じた新規顧客確保につなげる事業等周知
- ⑥ メルマガの発行によるリピーターの確保
- ⑦ エデュケーター事業（学校連携）の実施
 - 1-学校連携による各管理運営施設の利用促進
 - 2-教育委員会、小・中学校社会科研究会及び法人主催の教職員研修の企画・調整・運営
 - 3-学校の社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援
 - 4-小学校訪問授業の企画・調整・実施、周知
 - 5-授業改善のためのアンケート実施と検証
 - 6-学習補助教材となる授業コンテンツ等の作成、各学校への提供

(6) 災害対応

- ① 防災訓練の実施推進
- ② 帰宅困難者一時滞在施設（歴史博物館）としての役割の理解と実際の災害時の現場対応
- ③ 所蔵文化財の防災対策、災害時の対応及び激甚災害への備えと対応の検討

Ⅱ 指定管理事業

〔取組の全体像〕

令和4年度に実施された、2回目の中間評価の指摘を踏まえ「5館連携による豊かで幅広い取組」の更なる推進と、時宜に即応した課題や話題を事業に反映させていきます。

令和5年度は、歴史博物館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の3館で空調設備の入替など施設の長寿命化工事による長期休館が予定されています。休館時のアウトリーチ活動や各館同士、他団体との連携を積極的に進めます。各施設、各部署の特長を生かしつつ、法人全体で情報を共有し、組織として一体的に事業に取り組みます。

1 組織全体としての取組及び事業

1 柔軟な発想と多様性を生み出す連携

◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、各館の専門職に連携を促し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究に進めます。

◇魅力的・時宜に適した企画・展示・講座・出版

関東大震災 100 年特別展など館同士が連携した企画展の開催をはじめ、専門職員同士の連携や大学や企業との連携等により、歴史の魅力と博物館の魅力を演出します。

◇地域への貢献

横浜市の各局区や地域では、周年行事や町の活性化イベント、生涯学習講座など、歴史を通してまちづくりやふるさと意識を大切にする取組が行われており、各取組が充実するよう、組織の専門性を活かし、積極的に地域への貢献を行っていきます。

◇多様な組織との連携

歴史博物館が「みなきたマルシェ」と連携・協力した集客イベント開催など多様な組織と連携・協力し多彩な取組を行うことで、博物館の新たな魅力を創出し、集客につなげていきます。

◇子どもたちの学びの支援の実施

博物館に来館せずとも子どもたちが学べるよう、訪問授業や解説動画など授業コンテンツの提供や体験活動、イベントを実施します。

2 活力ある、魅力的な組織への取組

◇横断的研究の継続

財団内の人材交流を活性化し、調査研究を充実させるために、各施設の職員が協同行う横断的研究を今年度も継続して行います。また、ここで得られた研究成果を、連携展示や連携企画に反映していきます。

◇人材育成の充実

職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、効果的な研修を実施するとともに、担当係長会議等を充実します。また、職員がリーダーシップを発揮しやすい状況を生み出す「事業推進リーダー」を継続設置します。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	各管理運営施設の所在区をはじめ、各区の要請等により、歴史文化に関する様々な助言・執筆活動等の支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携を予定している区	中区	開港資料館 都市発展記念館	「中区歴史の散歩道」の執筆等
		保土ヶ谷区	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 埋文センター	広報よこはま ほどがや区版に、2025年の区制 100 周年に向けたコラム「保土ヶ谷のあゆみ」を隔月で連載
		磯子区	三殿台考古館	区内市民利用施設が連携して実施するゴールデンウィーク企画事業に参加
		金沢区	歴史博物館 埋文センター	金沢区と財団で締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定」に基づき文化事業等を実施
		港北区	歴史博物館	- 小机城発掘調査の紹介動画を作成すると共に、それを活用した普及事業、およびその他の区内文化財の普及啓発事業を実施 「よこはま縁むすび講中」を通して協力体制を構築
		都筑区	歴史博物館	- 広報よこはま都筑区版に「都筑の歴史」をテーマにした記事を隔月で連載 - 都筑区民まつりに協力
		旭区	歴史博物館	旭区にゆかりの深い鎌倉武士、畠山重忠についての普及啓発に協力
		戸塚区	埋文センター	戸塚区の歴史事業に情報提供等で協力
		青葉区	歴史博物館 埋文センター	青葉区制 30 周年プロジェクトにむけた事業協力
		栄区	埋文センター	- 栄区、栄図書館との連携事業 - 区民文化センター・地区センターとの連携
市との連携	研修会等		開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	- 市職員向け講座等の実施 - 区局主催の研修会への協力 - 市新採用職員研修での講話
	国際局		ユーラシア文化館	友好都市、パートナーシップ都市などの関連事業で協力
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所		全施設	「授業づくり講座」等職員向け研修への協力 - 教材研究資料として財団作成資料等を配架

	教職員育成課	全施設	新採用教員への施設年間無料パスを配布
	生涯学習文化財課	全施設	・文化財調査への協力 ・横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力
		埋文センター	歴史博物館で行う「横浜の遺跡展」と関連講座に共催
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会 ・中学校教材開発研究会
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習・社会見学・展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小中学校	歴史博物館	学校資料室の助言・活用
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・社会科クラブ研究活動への助言 ・展示見学の受入、大会審査員派遣等の協力
	近隣小学校	三殿台考古館	小学校の地域交流クラブ・総合的な学習の時間等への支援
	中学校等	全施設	中学校2年生を中心としたキャリア教育に協力し、職業体験等の受入
	中学校社会科教育研究会	歴史博物館	横浜市立学校総合文化祭中学校社会科作品の展示会場や研究発表会の会場を提供
図書館との連携	都筑図書館	歴史博物館	都筑図書館と連携・共催により、「郷土史展示」と講演会を実施
	中図書館	ユーラシア文化館	中区ブックフェスタに参加
	戸塚図書館	埋文センター	戦争遺跡のパネル展示で協力
	栄図書館	埋文センター	共催で出張展示を実施
他館との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・各部会が主催する研修会への参加 ・加盟館の情報共有と連携の促進
	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館 開港資料館 市史資料室	歴史資料を取り扱う県内の機関相互の情報共有と連携、研究協議を実施
	県立博物館等	歴史博物館 開港資料館 ユーラシア文化館	・調査研究 ・企画展での協力
大学との連携	東海大学	歴史博物館	・館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」を実施 ・地域史演習に協力
	フェリス女学	歴史博物館	大学と協定を締結し、カリキュラムに

	院大学		組み込まれたインターンシップ学生の受入
	大学学外研修	ユーラシア文化館	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受入
	日本大学	埋文センター	市内遺跡から出土した動物骨の DNA 鑑定に関する研究および普及啓発について連携
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館	<展示解説ボランティア> ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説 ・学校団体など来館者への展示解説と遺跡解説を一体的サービスとして提供 <活動支援ボランティア> 体験学習室等でのワークショップ、区民まつりや無料デーなどの集客イベント等に協力
	活動支援ボランティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催 ＊新型コロナウイルスの感染拡大状況の様子を見ながら実施
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館	・関心ある市民にガイドとして参加してもらい、来館者への解説や体験学習を実施 ・ボランティアの協力を得て収蔵資料の再整理を実施
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	横浜郷土史団体連絡協議会の事務局を担当し、連携して各種事業を実施 ＊新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ実施
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	博物館をバックアップする市民団体である「横浜歴博もりあげ隊」と協力し、講座やコンサート等のイベントを実施
	縄文土器作りの会	歴史博物館	・学校等からの要請に応じ「横浜縄文土器づくりの会」と協働で出張土器づくり指導を実施 ・実験考古学講座「縄文土器づくり」を実施 ・実験考古学の方法論に沿った調査・研究活動へ協力

	古文書を読む会	歴史博物館	古文書解説教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻を行い、当館の出版物等にその成果を発表
	古代資料を読む会	歴史博物館	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方向けの講座や講演会等を実施
	さいかちの会	歴史博物館	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と連携し、展示解説ボランティアのスキルアップに資する講座や史跡見学実習等を実施
	横浜シティガイド協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	市民の視点から地域をガイドする団体「NPO 法人横浜シティガイド協会」と協力し、テーマに沿った学芸員の解説とガイドツアーを組み合わせた連携事業を実施
	青葉区郷土史の会	歴史博物館 埋文センター	青葉区制 30 周年記念プロジェクトについて講座開催などで連携
	スタチューパフォーマンス協会	ユーラシア文化館	横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施し、集客と地域の賑わい創出に貢献
地域連携	タウンセンター活性化検討会	歴史博物館	港北ニュータウン・タウンセンター地区の諸事業所と連携し、活性化を図る企画や催しを実施
	センター北商業振興会	歴史博物館	3 月に開催されるセンター北まつりに参加し、地域の賑わい創出に寄与
	みなきたマルシェ実行委員会	歴史博物館	毎月最終土曜日開催の「みなきたマルシェ」に 協力し、地域の賑わい創出に寄与
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	ハマフェス Y164 に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通り活性化委員会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しを実施。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・中華街での出張展示の実施や横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの実施

	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・ハマフェス実施等に関する連絡調整
	元町 SS 会	開港資料館	開港資料館文化観光拠点計画で連携
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	民家園・遺跡公園・博物館等を拠点に、資料整理や連携イベントなどを開催
	新聞博物館・放送ライブラリー	都市発展記念館 ユーラシア文化館	横浜情報文化センターの2施設との広報やイベントなどの事業連携
	横浜地域資料研究会	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館	中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	区内市民利用施設の連携・情報交換
	横浜商工会議所	開港資料館	同会会報誌「YOKOHAMA商工季報」に横浜の歴史に関する記事を連載
	横浜港振興協会	開港資料館	同会広報誌「よこはま港」に横浜の歴史に関する記事を掲載
	よこはま縁結び講中実行委員会	歴史博物館	青葉区の「市民ギャラリーあざみ野」、緑区の「みどりアートパーク」、港北区の「大倉山精神文化研究所」、「小机城のあるまちを愛する会」等と連携し、北部4区の文化遺産を活用するイベント等の開催、一体的な情報発信により、新たな地域文化圏の形成に寄与
企業との連携	横浜ビー・コルセアーズ	歴史博物館	横浜ビー・コルセアーズとの協定に基づき、歴史及びスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施
	ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」を実施中
その他外部組織との連携	かながわ考古学財団	埋文センター	かながわ考古学財団との職員相互派遣協定をに基づき、調査や資料の鑑定などの派遣依頼を無償で相互に協力
	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	埋文センター	情報交換・イベント共催

2 歴史博物館事業

〔取組の全体像〕

3か年にわたる協約の最終年度にあたる本年度は、横浜市公共建築物長寿命化対策事業による約4か月の休館、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の長期休館への協力、博物館法の改正、令和7年に迎える開館30周年事業の準備など、さまざまな状況変化や課題に対応しながら、協約目標達成に向けた運営に取り組みます。

資料収集事業では、5階歴史収蔵庫の2層化を行い、都市発展記念館・ユーラシア文化館の休館に伴う資料の退避に対応するほか、チラー更新工事に伴う収蔵環境の適切な維持管理に注意を払いながら取り組みます。調査研究事業では、基礎研究・テーマ研究・市民協働研究、連携調査研究を設定し、美術の分野では新たにこれまでの文化財調査の成果を踏まえ、仏像を体系的に捉える調査研究を実施します。これらの成果は企画展や普及事業、また出版等により市民に還元していきます。

常設展示室では、スタディサロンの構造と特色を活かし、満足度を高める事業に取り組みます。劣化や老朽化が進む展示機器については市と情報を共有し、修理等の対応により維持・管理を図るとともに、展示の更新に向けた調査や検討を行います。

企画展事業では、横浜開港資料館と連携し、同館の文化観光拠点計画の成果を活用して横浜浮世絵を取り上げた企画展「浮世の華」、埋蔵文化財センターと連携し、小学校6年生の社会科カリキュラムに対応しながら、発掘調査成果も紹介する企画展「帰ってきた 君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2023—」、横浜ゆかりの作曲家中田喜直の生誕100年を記念した特別展「生誕百年 中田喜直展」、横浜市経済局や市民局から移管を受けた資料を活用して明治から昭和時代にかけての横浜の輸出産業と工芸品等を紹介する企画展「横浜の輸出産業（製品）展」など、時宜に応じた多彩な企画展・特別展を開催します。講座や各種催しはウィズコロナを踏まえ、多様な方法で市民が安心して横浜の歴史と文化に親しみ、学ぶ機会となるように取り組みます。また、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光等の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務とした博物館法改正や、令和7年の都筑区民文化センターの開館を見据え、「よこはま縁結び講中」や「よこはま地域文化遺産」を含め、さまざまな団体との連携・協力を深化させ、地域の文化や賑わいを発信する拠点となることに寄与する事業を展開します。

令和7年の開館30周年に向けた記念事業については、内容を具体化し資料調査や出品交渉を進めるほか、連携する団体との調整を進めます。

施設管理では、竣工から30年を経て生じている不具合について、市と情報を共有し、安全を最優先にして修繕を含めた維持管理を進めます。

収益事業では、オンラインショップを含めてミュージアムショップに注力し、企画展毎に魅力ある商品を扱い、また地域の活力向上に資する商品の開発に取り組みます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館の基幹となる資料の収集や整理を進めます。また、チラー更新工事に伴い、収蔵庫の保存環境の維持・管理は一層の注意を払いながら行います。また、公開や利用に供します。

（1）資料の収集

資料の保全、並びに展示や調査研究等の博物館活動で活用することを目的に、実物資料などを寄贈・寄託や購入等によって収集します。

（2）資料の修繕

資料の保全の観点から必要な修復を行います。

（3）資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、またIPMの手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図ります。

空調工事により休館する横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の資料の一時保管、並びに今後の収蔵資料増加に対応するため、5階歴史収蔵庫の収蔵棚の増設工事を実施します。

（4）資料の整理活用

東海大学と連携し、館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」を継続します。当館を含む財団管理施設、市内の資料所蔵施設における考古・歴史・民俗資料の整理を継続します。

当館収蔵資料及び展示資料のデジタル写真撮影を進めます。また、過去に撮影し保管しているフィルムについても、順次デジタル化を進めます。

（5）図書資料の公開

図書文献を収集し整理を進め、図書閲覧室で公開します。

（6）画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸し出し、資源の活用を図ります。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

博物館活動の原資となる調査研究について、基礎研究・テーマ研究・市民協働研究の3分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていきます。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎研究		
市域所在の中世資料の調査 (1/2 年次)	横浜市域所在の中世資料の再確認を実施。またそれに関係する近世・近代の古文書や金石文等の資料についても、近世・近現代の財団職員と連携し調査・撮影を行います。	市域に残る中世資料について引き続き確認調査を実施。小机町鈴木家に残る豊臣秀吉禁制の撮影を実施するほか、市外所在の資料についても調査・撮影を進めます。

市内旧家所蔵資料調査（1/2 年次）	横浜市や神奈川県が昭和期に実施した調査により所在が確認された資料の再調査、新たに確認された資料の調査・整理を行います。	緑区荻谷家文書、緑区河原家文書などの整理を行います。
横浜市域の美術史の基礎的研究（1/2 年次）	これまで横浜市域における美術作品の調査研究は未着手な状態でした。これらを体系的に捉え、美術史の俎上で研究を進めるため、市域寺院、所蔵資料の基礎的データ蓄積と作成を行います。	昨年度実施した南区・寶林寺宝物の詳細調査と目録作成を進めるほか、当館所蔵絵画資料の悉皆調査を前年度に引き続き行い、浮世絵資料の目録作成のためのデータの整理を行います。
八聖殿資料調査（1/2 年次）	昭和 48 年の開館以降、八聖殿郷土資料館に収蔵された資料は収蔵期に刊行された目録以降、調査されずに現在に至っています。この八聖殿で所蔵されている民俗資料の現状調査・整理を行います。	昨年度まで実施していた資料調査・整理を引き続き行います。
横浜市域の古墳時代資料の研究（1/2 年次）	博物館・財団施設の保管する古墳時代の出土資料は、横浜の古墳時代について知るための貴重な資料です。 市ヶ尾地域出土資料の基礎整理の実施や、再整理の完了した上矢部町富士山古墳出土品（横浜市指定文化財）の調査等を通じ、横浜の古墳時代像を描くことを目指します。	引き続き、横浜市域の古墳時代を代表する稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴墓群（神奈川県指定史跡）の調査時資料の確認と、出土品の基礎整理を埋蔵文化財センターや外部の研究者などと連携して行います。また、上矢部町富士山古墳出土埴輪の基礎データの整備を進めます。
テーマ研究		
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究（1/2 年次）	三殿台考古館・埋蔵文化財センター・外部研究者・横浜縄文土器づくりの会と連携し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討します。 水田および畑を試耕し、弥生時代の稲作について検討します。 大塚遺跡における水田の位置推定を進めます。	「水田稲作比較技術研究プロジェクト」（代表：山田昌久）に参加し、水田や畑で、生育条件を変えた水稲や陸稲の実験育成を行い、弥生時代の稲作に関するデータの蓄積を進めます。 大塚遺跡周辺の水田推定地について、ボーリング調査ないし試掘調査可能な場所を検討します。

	弥生時代の調味料について外部研究者・民間事業者と連携研究を実施します。	弥生時代の植物利用を把握するため、出土土器の圧痕調査を進めます。 弥生時代の調味料として魚醤ないし魚を発酵させた塩漬け(塩辛など)を想定し製作実験などを行います。その成果は紀要や展示などで公開します。
市内彫刻文化財の研究(1/2年次)	横浜市による彫刻文化財の調査報告を中心としたこれまでの研究成果を整理したうえで、市域に伝わる仏像を体系的に捉えます。	昭和45年に開始された文化財調査報告および調査関連資料を精査します。また主要作例は現在の安置状況等の確認調査を行います。
学校内歴史資料室に関する研究(1/2年次)	平成25年度以降実施してきた学校内歴史資料室の資料整理の成果に基づき、学校や地域と連携して、その活用を図ります。	学校内歴史資料室に関する情報をまとめ、資料所在状況や具体的な活用のあり方等を明らかにします。
都筑区川和町中山家に関する研究(1/2年次)	平成30年度から「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」の一環として整理している中山家資料について、引き続き資料の分析を行い、川和地域と中山家の関係や様相を明らかにします。	中山家資料の整理・調査中において発見した『営業簿』(昭和3～9年)と『金銭判取帳』(昭和4年)を取り上げ、整理作業を進めるほか、分析のためのデータを蓄積します。
武州金沢藩米倉家文書に関する研究(1/2年次)	横浜市域唯一の大名である武州金沢藩主米倉家に残された資料の整理を行い、文書群の性格やその意義を考えます。	米倉家文書のうち、横浜市史料所在目録第二集に掲載されていない未整理の資料の整理を行います。
市民協働研究		
土器の制作・使用に関する実験考古学的研究(1/2年次)	市内出土の土器について、横浜縄文土器づくりの会・外部研究者の協力を得ながら弥生土器の観察と制作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究します。	大塚遺跡出土の宮ノ台式土器の製作実験と使用実験を中心に行い、データの蓄積を進め、その成果は紀要や展示などで公開します。

市民協働古文書整理 解説 (1/2 年次)	横浜古文書を読む会の下読み会とともに、当館所蔵の古文書を中心に、整理作業や解説を行います。解説の成果は紀要や調査研究報告などで公開します。	横浜市域の廻り地蔵に関する記録の解説を行います。
市民協働民俗調査 (1/2 年次)	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを進めます。	継続して恩田川流域のフィールドワークを実施し、鶴見川との合流点である緑区落合橋を目指します。また勉強会を開催し、流域の文化について学びます。

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施します。

施設間の連携による研究		
小机城・小机地域にかかわる総合的研究 (3/5 年次)	R 3～6 年度にかけての横浜市による小机城発掘調査とかかわり、小机城および周辺地域の文献史料その他の総合調査を行います。	令和 3 年度より続く「横浜縁むすび講中」と協力して、小机地域の歴史について調査を行います。
ユーラシア概念をめぐる研究 (3/5 年次)	ユーラシア文化館と連携して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進めます。	財団内外の研究者の研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、また共同企画展などの可能性を模索します。

(3) 企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設の資料調査などを実施します。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） *基本観覧想定数 28,000人

常設展示室を公開し、広く市民に横浜3万年の歴史を紹介します。またミニ展示やイベントを開催し、利用者の促進を図ります。

*基本観覧想定数は、休館期間中の入館者減を勘案した場合の観覧者数を想定

（1）維持管理事業

展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えを含む維持管理、修繕等を行います。

（2）魅力Up事業

常設展示室の構造と特色を活かして、来館者の満足度を高めるための事業を行います。

（ア）「横浜市歴史博物館多言語展示解説アプリ」を活用し、外国人利用者を含む来館者の満足度を高めます。

（イ）デジタルサイネージ展示のコンテンツを充実させます。



サイネージ



吉田新田ミニ展示

（ウ）スタディサロンの活用

スタディサロン内での展示を実施するほか、普及事業の一環として、スタディサロンを会場にした「伝統芸能イベント」等を実施します。

（エ）ミニ展示

歴史劇場出口付近やスタディサロン等を活用し、収蔵資料等の紹介や、小学校の学習単元に合わせた「ミニ展示」を実施します。

（オ）展示解説ボランティアによる常設展示解説

感染症対策を図りながら、展示解説ボランティアによる常設展の展示解説を学校団体や来館者に行い、展示理解の向上に努めます。

（3）更新検討事業

開館30周年を見据え、常設展示室のリニューアルに向け、先進施設の視察を伴い、検討を進めます。

また、歴史劇場については、制御装置や機器の老朽化が進んでいることから、今後の円滑な運営を維持するべく対応を検討します。

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）企画展・特別展

本年度は、横浜開港資料館文化観光拠点計画における資料のデータベース化の成果を踏まえた浮世絵展、小学校6年生の社会科見学に対応する考古学の企画展、横浜ゆかりの作曲家中田喜直の生誕100年を記念した特別展、近年移管された横浜スカーフなどを市民に公開する横浜の輸出産業展と、博物館活動の成果を踏まえつつ時宜に応じた多彩な企画展・特別展を計4本開催します。市民が安心して参加できる多様な関連事業を展開し、より広い層の方々に当館の展示をご覧いただけるように広報を努めていきます。

*基本観覧想定数は、新型コロナウイルス感染症が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数を想定

企画展・特別展名称／開催期間	基本観覧想定数	目的・意図、実施内容
企画展 「浮世の華 描かれた港崎」 令和5年3月18日(土) ～5月7日(日)	4,800人 ＊有料2,880人	開港期、変わりゆく横浜の都市景観の様子、外国人、新しい風俗や文化を描いた浮世絵が流行しました。 本展は横浜の街づくりとともに建設された港崎遊廓について、浮世絵を中心とした横浜開港資料館の所蔵資料をもとに、その歴史と記憶を紹介します。 対象：一般
企画展 「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語 2023-」（仮題） 令和5年5月20日（土） ～6月25日（日）	4,000人 ＊有料2,180人	小学校6年生を主たるターゲットとし、考古学の基礎と横浜の遺跡について分かりやすく紹介します。ひとつの遺物から考古学によって見えてくる歴史を展示のストーリーとして展開するとともに、参加型の展示や質問コーナーを設置し、来館者が考古学を身近に思える展示を試みます。 大塚遺跡本格調査50年に関するトピック展を行います。 埋蔵文化財センターによる「横浜の遺跡展」を企画展示室内で同時開催します。 対象：小6以上・一般

特別展 「生誕百年 中田喜直展」(仮題) 令和5年7月15日(土) ～10月1日(日)	20,000人 ＊有料 10,000人	「めだかの学校」、「夏の思い出」、「ちいさい秋みつけた」、「雪のふるまちを」など、昭和を代表する楽曲を生んだ作曲家・中田喜直は、昭和43年から平成12年に亡くなるまで横浜で暮らしたことをはじめ、フェリス女学院大学で教鞭をとったこと、横浜市立学校の校歌を数多く作曲したことなど、横浜にゆかりの深い人物です。生誕100年の記念の年となる今年、中田の生涯や音楽、横浜とのかかわりを紹介し、関連イベント等で中田音楽を楽しめる展覧会を開催します。 対象：一般
企画展 「横浜の輸出産業(製品)展」(仮題) 令和6年2月3日(土) ～3月10日(日)	3,300人 ＊有料 1,650人	収蔵する近代以降の輸出製品資料等を活用し、横浜の輸出産業について市民に紹介する展示を開催します。 対象：一般

(2) 講座・講演会

項 目	目的・意図
歴史講座	当館学芸員や外部招聘した講師により、横浜の歴史や民俗、美術等をテーマにした講座を開催します。
古文書解読教室 初めての古文書	初心者を対象に、当館学芸員を講師として、近世古文書の解読講座を開催します。 オンラインにて実施予定 。全8回。
特別講演会	開館を記念した特別講演会を実施します。考古・歴史・民俗・美術分野の第一線で活躍する研究者を講師に招きます。
実験考古学講座	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座を行います。全4回。
街頭紙芝居デビュー講座	紙芝居の歴史や遊び方を学び、横浜市有形民俗文化財の街頭紙芝居の複製を実際に演じるまで行う講座を行います。
関連団体との協働歴史講座	当館の関連団体と協働で、随時歴史講座を開催します。
夏休み紙芝居	夏休み期間中に、仙台よりチボリ兄弟舎を招いてオリジナル紙芝居の実演を行います。
バックヤードツアー	博物館の裏側を見学できるツアーを開催。隔月に一回ずつ実施します。
ナイトミュージアム	閉館後の照明を落とした博物館を、懐中電灯などを使ってワークシートを解きながら探検します。



オンライン講座「初めての古文書」



実験考古学講座「縄文土器づくり」

(3) 普及体験

項 目	目的・意図
体験学習室「れきし工房」	ミュージアムショップで販売する「れきし工房キット」を制作するワークショップを実施します。作品を「作る」ことに主眼を置きます。制作のサポートは、活動支援ボランティアの協力を得ます。新型コロナ流行の状況を鑑み、事前申込・定員制にて原則毎月実施します。
事前申込型「れきし工房」	野外施設の工房や体験広場等で、ゲスト講師を招き、楽しみながら歴史に触れるワークショップ「れきし工房」を開催します。「作る」だけではなく作品の背景も紹介します。勾玉づくり、万祝染、小さな土器、銅鏡チョコづくり、ドッキーづくり等を実施します。
スタディサロンイベント	スタディサロンを活用して、外部の演者による日本の伝統的な芸能に触れるイベントなどを実施します。

(4) 集客イベント等

新型コロナウイルス感染症対策を図りながら可能なイベントを実施するほか、状況に応じて追加で事業を実施するなど、柔軟に対応します。

項 目	内 容
ラストサタデープログラム	毎月最終土曜日を「ラストサタデー」とし、常設展示室やエントランスホールなどを使って各種イベントを開催します。
「開港記念日」市民優待デー	開港記念日を祝い、展示室での催しや、地域や関連の団体等と連携したイベントを実施します。
都筑区民まつり連動イベント	文化の日に実施される都筑区民まつりと連動して、イベントを実施します。

コンサートの実施	歴史博物館をより身近に利用していただけるよう、外部文化団体と協働で、エントランス等を会場にコンサートを開催します。
センター北まつり連動イベント	3月に実施されるセンター北まつりと連動してイベントを実施します。
おもしろいぞ！紙芝居	横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、ラストサタデープログラムの一環として複製した紙芝居を実演します。

(5) アウトリーチ

項 目	目的・意図
関家住宅特別公開	教育委員会と連携し、国重要文化財である関家住宅の特別公開事業を実施します。
中山恒三郎家公開	財団他施設や地域の町内会、ガイド団体などと連携し、市認定歴史的建造物である中山恒三郎家の公開事業を実施します。
市域文化財のパネル展示	教育委員会と連携し、休館中に、市域の他施設で、横浜市指定・登録文化財の出張パネル展示を実施します。

(6) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの連携	<展示解説ボランティア> 市民ボランティアにより、大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行います。学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげます。 <活動支援ボランティア> 令和4年度の実績をもとに、体験学習室でのワークショップ「れきし工房」での対面指導を、新型コロナウイルスの感染対策を講じつつ、可能な限り継続します。この他にも、スタディサロンや体験学習室、遺跡公園、その他財団他施設などにて、ウィズコロナ時代の安全な活動を模索します。
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	開港資料館と共に 横浜郷土史団体連絡協議会 の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施します。
横浜歴博もりあげ隊との協働	博物館をバックアップする市民団体である「 横浜歴博もりあげ隊 」と協働し、講座やコンサート等のイベントを実施します。

横浜縄文土器づくりの会との協働	実験考古学講座縄文土器づくり教室の指導を委託します。 会の活動の広報を行うとともに、調査研究事業への協力を依頼し、実施します。
古文書を読む会との協働	古文書解読教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、古文書の解読講座を開催するとともに、所蔵資料を中心に古文書の翻刻を行います。また、近世史に興味のある一般の方へ向けた講演会を企画・実施します。
古代史料を読む会との協働	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施します。
さいかちの会との協働	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と協力し、講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施します。
かやぶき屋根プロジェクト	大塚・歳勝土遺跡公園内の復元竪穴住居の茅葺屋根を市民ボランティアとともに修繕します。 修繕の技術は茅葺職人から指導を受けることとし、その成果は活動内容の見学会や講座などにより広く市民へ伝えます。 同公園内の都筑民家園とも連携し、茅と茅葺屋根について楽しみながら学べる機会とします。「よこはま縁むすび講中」の事業のひとつとして実施する計画です。



かやぶき屋根プロジェクト



古代史料を読む会講演会



もりあげ隊コンサート

(7) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エデュケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・児童生徒向け動画・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進します。教員を委員とする「小学校博物館利用研究会」、「中学校博物館利用研究会」を継続して開催し、財団の所有する各種収蔵物や資料等の教材化へ向けた研究を進めるとともに、小中学校との連携を強化します。 学校団体予約システムを新型コロナウイルス感染症対策に合わせ改良運用し、受け入れ機能の強化を図ります。
訪問授業・展示解説授業	博物館見学事前指導として有効な令和元年度から始めた6年生への訪問授業「ようこそ歴史博物館遺跡公園へ」を進めていきます。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「市の広がり」と昔の暮らしや「吉田新田の開発」など特定テーマに関する研修を実施します。
中学校社会科研究会	横浜市立学校総合文化祭の一環として中学校社会科研究会による作品展と社会科研究発表会の会場を提供します。今年度は休館があることから、時期を含めて検討します。
高校生研究発表会	神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会（県大会）を実施し、審査員の派遣などを行います。
学校内資料室の調査・整理、授業活用における対応	学校内資料室における資料調査を行い、昔の暮らしなどの社会科授業や総合学習の授業に対応した整理を行います。

(8) 地域や多様な組織との連携

項 目	内 容
横浜市との連携	広報よこはま市版にコラム「よこはま彩（さい）発見」に寄稿します。
都筑区との連携	広報よこはま都筑区版に「都筑区の歴史」をテーマにした記事を隔月で連載します。
保土ヶ谷区との連携	広報よこはま ほどがや区版にコラム「保土ヶ谷区のあゆみ」を連載します（財団全施設）。
金沢区との連携	金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携を図ります。

港北区との連携	・小机城をテーマとした普及啓発事業を実施します。 ・12月にパシフィコ横浜で開催されるお城 EXPO において、埋文センターと連携し、小机城をはじめとする横浜市域の中世城郭を紹介します。
都筑図書館との連携	都筑図書館と連携・共催して、郷土史展示や講演会等を実施します。
よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会との連携	コンサートなどのイベントを連携して開催します。
タウンセンター活性化検討会との連携	都筑区のタウンセンター地区（センター南・北）の活性化について、当該地区の諸事業所ともにアイデアを出し合い、多様な企画や催しを実施します。
横浜ビー・コルセアーズとの連携	横浜ビー・コルセアーズとの協定に基づき、歴史およびスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施します。
多様な連携事業の実施	市内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施します。



みなきたマルシェ



都筑図書館連携展示

(9) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	・館内外の広報案内看板による広報を行います。 ・市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類を配布します。 ・インターネットによる広報（ホームページ・SNS・メールマガジン発信）を行います。 ・各種プレイガイドへの登録によるPRを行います。 ・リリース配信サービスを利用した幅広い層へのPRを行います。 ・広告掲載等により協賛金を獲得します。 ・新聞・雑誌・ラジオ等マスコミへの話題提供を行うとともに、出演に応じます。 ・外部企業と協働した戦略的な広報を展開します。 ・広報誌「横浜市歴史博物館 News」や催し物案内、パンフレット等の広報印刷物を発行します。 ・市民や利用者ニーズの把握のために、アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成します。

(10) 出版

項 目	内 容
出版物の刊行	・「横浜市歴史博物館資料目録」第32集 ・「紀要」第28号 ・「調査研究報告」第20号 ・企画展関連出版物（図録等） 「資料目録」や「紀要」、「調査研究報告」については、電子媒体で公開します。

(11) 博物館実習・キャリア研修等の受入

項 目	内 容
中学校	キャリア教育の一環として実施される職場体験について、可能な範囲で受け入れます。
高等学校	キャリア教育の一環として実施されるインターンシップについて、希望する生徒を可能な範囲で受け入れます。
大学・大学院	・博物館館務実習は、収蔵棚の増設工事及び休館を伴う空調工事のため中止します。 ・その他、インターンシップや社会教育研修などを希望する大学生・大学院生を可能な範囲で受け入れます。

(12) よこはま縁むすび講中事業の実施

文化庁の助成を受け、当館が中核館となって令和3年度から実施している「よこはま縁むすび講中」事業について、令和5年度は文化庁の「Innovate MUSEUM 事業」に助成を申請し、実施します。

本事業は市域の北部4区を対象として、各区のハブ施設となる緑区：みどりアートパーク、青葉区：市民ギャラリーあざみ野、港北区：大倉精神文化研究所、都筑区：横浜市歴史博物館を設定し、それぞれの地域に存在する文化遺産を活用するイベント等の取組を実施するとともに、それらを対象地域の人々に情報を発信し、共有する地域文化圏の形成を図ることを目的としています。

当館では、「かやぶき屋根プロジェクト」を本事業に組み込んで実施します。

5 開館30年記念事業の具体化及び準備

令和7年(2025)1月31日に開館30年を迎えるにあたり、同年を開館30年と位置づけ、記念事業を実施します。今年度は、事業内容を具体化し、実施に向けて準備を進めます。

・企画展示 Part 1

横浜ゆかりの文化財から、開港以前を中心に、横浜の歴史・文化の魅力を紹介します。国宝・重文などの優品、名品に加え、意外な文化財（未指定を含む）を展示。横浜市が策定を進めている文化財保存活用地域計画案の内容も反映していきます。

・企画展示 Part2

「開館前の30年、開館後の30年、これからの30年」をテーマに、博物館の歴史と地域(北部4区、旧港北区)との交流を反映させた展示を行います。博物館や遺跡公園を会場とし、民家園や新たに開館する都筑区民文化センター、地域の企業やさまざまな団体と連携します。

・企画展示 Part1、Part2 と関連させながら、資料のデジタル化および公開や、常設展示室をフレキシブルに活用した催しなど、さまざまな普及事業を実施します。

・常設展示室多言語アプリにドイツ語を追加導入します。

6 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索等を公式ホームページを通じて発信します。より見やすいホームページへの改修を見据えた検討に着手します。

(2) 多言語アプリおよび映像資料の普及

常設展示室内の展示について4か国語（英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）で解説する多言語アプリの周知に努めます。また、ドイツ語の導入に向けて準備を進めます。また昨年公開した横浜の歴史や文化財に関する動画とQ&A（歴史クイズ）についても、周知および普及に努めます。

(3) 情報システムの保守管理

サーバー並びにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行います。

(4) メールマガジンやSNSの活用

博物館の存在をより身近に感じるような発信を行います。

(5) インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

インターネットを利用した催事申込システム並びに、学校団体予約システムを運用します。更に使いやすい催事申込システムへの移行を検討します。

7 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設について、適切かつ効率的に施設の維持管理を図ります。

(1) 歴史博物館及び野外の施設維持

建物竣工から29年が経過し、経年劣化による不具合や故障が発生していますが、その都度、各関係機関と調整を図り、修繕等の対応を円滑に進めます。また、今年度は10月から4か月間休館し、横浜市の長寿寿命化工事の一環として空冷チラー交換工事が行われます。工事期間の館内環境の維持及び、工事業者との工程確認・調整、近隣への配慮に努めます。

(2) 研修室・講堂等の貸出

手指消毒・利用者による清掃等の感染症対策を図りながら、施設の貸出を行います。

(3) 区役所や周辺施設との連携を図りながら、帰宅困難者一時滞在施設として対応を行う。

8 収益事業（定款第4条第2項）

(1) ミュージアムショップの経営

企画展毎に魅力ある商品を仕入れるほか、新商品の開発に取り組み、収益増加を目指します。

オンラインショップの取扱商品をさらに充実させます。ショップの運営方法について見直し、委託業者の業務範囲を拡大します。

(2) 駐車場の運営

来館者の利便性と効率化を図るため、駐車場利用時間を博物館開館時間より長い8時～18時とし、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキング運営会社に委託し、運営しています。

(3) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲料を販売します。

3 開港資料館事業

〔取組の全体像〕

横浜開港資料館では、令和3年度に文化庁の認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画（以下、拠点計画）」が3年目に入りました。関内エリアの文化観光拠点施設として機能強化を図っていく本事業は、今年度から旧館（旧英国総領事館）の整備が本格的にスタートします。旧館の整備では、昨年度に実施した建物の耐震診断および保存活用実施設計に基づいて、耐震補強や外壁・屋根の外観復元工事を実施するほか、バリアフリー対策として、旧館と新館をつなぐ渡り廊下の付け替え工事に着手します。中庭の「たまくすの木」も、昨年度に策定した基本管理計画に基づいて、市地域史跡として相応しいメンテナンスを実施します。更に、昨年度に内装工事が完了した付属棟（旧門番所）では、新たにミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能をもった複合施設「PORTER'S LODGE」として、運営を開始します。館蔵資料を活用したオリジナル商品の開発等の事業を進めながら、新設される本施設を軸として、収益事業を展開していきます。

資料収集保管事業では、引き続き、館蔵資料のデジタル化作業を進めるとともに、昨年度から設計を進めてきたデジタルアーカイブの一部運用を開始します。当館が所蔵する浮世絵・古写真などの画像史料を中心に、約5,000点の館蔵資料が一気に公開されます。

今年度の企画展事業は、都市発展記念館との共同開催で、関東大震災100年の特別展「関東大震災100年 大災害を生き抜いてー横浜市民の震災体験ー」（仮）を開催します。罹災した市民の体験記などを中心に、横浜にとって幕末の開港に次ぐ歴史の転換点となった関東大震災を振り返ります。

調査研究事業では、財団施設や外部研究者との共同研究を継続して進め、2024（令和6）年のペリー横浜来航170年、2025（令和7）年の戦後80年に向けて、着実に成果を積み上げていきます。

また昨年度に引き続き、5月下旬に開催されるハマフェス（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）などの機会を利用して、山下公園通り、中華街、元町、日本大通り等の地域事業者とともに、界隈の活性化に向けた事業を推進していきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に資料の寄贈・寄託を受けます。
資料購入	展示・調査研究で活用できる近代横浜の歴史に関する国内外の歴史資料、書籍等を購入します。

(2) 資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成して閲覧利用に供します。また、資料目録の HP 上での公開や館蔵資料のデジタル化を中心に、デジタルアーカイブの素材となる基礎資料の整備を継続します。**今年度は、拠点計画事業で準備を進めてきたデジタルアーカイブの一部運用を開始します。**

項 目	目的・内容
資料目録の作成・電子化	当館が所蔵する文書記録類（原資料・複製本）の目録を作成するとともに、電子化を行います。目録は、ホームページで公開し、資料の閲覧利用に便宜を図ります。
文書記録類のマイクロ撮影・デジタル化	当館が所蔵する文書記録類の保存、及び原資料での収集ができない新出資料の収集のため、マイクロフィルム撮影を行います。あわせて デジタルアーカイブでの公開を見据えたマイクロフィルムのデジタル化を進めます。
画像資料のデジタル化	当館が所蔵する画像資料（古地図・古写真・浮世絵・版本挿絵等）のうち、デジタル化が済んでいない資料の撮影・デジタル化を進めます。

(3) 資料の保管

資料は、常時温度 20～22 度、湿度 50～55%を保った収蔵庫で保管します。その他大型の器物等資料は外部倉庫で保管し、**マイクロフィルムについては保存環境が整った外部倉庫で保管**します。資料の保存環境の維持管理を図るため、通年で収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの環境測定調査を実施し、劣化あるいは破損した資料は専門業者に委託して補修を行います。

(4) 資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展覧会へ資料を貸し出します。

2 調査研究事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

館の活動の基盤となる調査研究を、横浜の近代建築・都市計画史、近現代政治社会史、アーカイブズ学、幕末維新期の社会・生活史、近代欧米関係史等の分野に基づき、**(1) テーマ研究 (2) 財団施設間での連携研究 (3) 外部研究者との共同研究**の 3 つの柱から継続的に実施します。

(1) テーマ研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜開港資料館（旧館・新館）の建築資料に関する調査研究 （2 / 2 年）	横浜開港資料館の旧館および新館の建築関係資料（図面・写真等）の調査および分析を行います。	旧館（旧イギリス総領事館）の整備にともなう図面・写真資料の調査を継続し、戦前から戦後にかけての用途の変遷を分析し、拠点計画事業で進める旧館の展示計画に反映させます。

近代横浜の戦争史研究 (2 / 4 年)	終戦 80 年 (2025 年) に向けた、近代以降の横浜における戦争関連資料の調査・研究を行います。	終戦80年記念企画展に向けて、財団が所有する戦争関連資料および地域に眠る資料の発掘、関係者への聞き取り調査を行い、その成果を紀要等で公開します。
横浜開港資料館アーカイブの研究 (2 / 2 年)	横浜開港資料館が所蔵する諸資料を閲覧公開するためのシステムを再検討し、より良い閲覧体制を構築するための研究を行います。	デジタルデータベースを構築し、古文書・絵画・写真・地図等の画像データおよび目録情報をWebサイトにて公開します。
幕末期対外関係史の研究 (1 / 2 年)	幕末期 (1853～1868 年) の幕府の外交組織 (外国奉行・神奈川奉行等) のありようと横浜における対外交渉の実態を検討します。	当館・国内資料保存機関が所蔵する外国奉行・神奈川奉行に関する歴史資料を収集し、分析を行います。成果は2024年度の当館特別展「外国奉行・神奈川奉行」展で報告します。
幕末～明治初期古写真の研究 (延長) (2 / 2 年)	幕末～明治初期に撮影された当館所蔵古写真の分析を進め、当該期の横浜・日本各地の情景についてより詳細な情報を提供できるようにします。	当館所蔵の木村芥舟関係資料に含まれる幕末期の古写真について、その高精細撮影と分析を東京大学史料編纂所と連携実施します。また、当館所蔵の古写真の整理と分析を進めます。
横浜近代欧米関係史 (2 / 3 年)	横浜の欧米外国人社会に関する調査・研究を行います。	館蔵海外関係資料の調査研究を継続実施し、一般公開に向けた整理等の作業を進めます。

(2) 連携研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、法人が管理運営する他施設と連携した研究を行います。

①戦後 80 年記念事業に向けた連携研究事業

戦後 80 年 (2025 年) に向けて、横浜の戦中・戦後占領期における歴史を多角的に明らかにする研究事業を、都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターと連携して進めます。2025 年の企画展示に向けて、各施設が所蔵する戦争関係資料や戦争遺構についての調査を進めます。

②京浜移住者に関する基礎的研究

公衆浴場を経営する地方出身者に注目し、移住者の出身地の研究者および開港資料館・歴史博物館と連携しながら、京浜地域における同郷者集団の形成過程を、歴史学・民俗学・考古学の手法から複合的に分析します。本年度は紀要にこれまでの研究成果をまとめます。

③都市横浜「歴史空間」復元への調査研究事業

絵地図、写真、浮世絵、絵葉書、映像などの画像資料を主として、統計・文献資料などの各種歴史資料も用いて、近代都市（幕末～昭和期）の地理空間をGISによって復元します。くわえて、横浜市域の地図の資料研究も実施します。**都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館と連携して実施します。**

（３）外部研究者との共同調査研究

財団の専門職員だけでは実施できない調査研究を、外部の研究者と共同して行い、成果を財団の事業に反映させます。

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜地域資料研究会 (中山恒三郎研究会) (2／4年)	中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究を行います	①中山恒三郎家文書の整理・調査 ②太陽合資会社関係資料の調査 ③中山家関係者への聞き取り調査
横浜幕末維新史研究会 (2／4年)	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究を行い、講座・展覧会・書籍などで成果を報告します。	①当館・横浜市内外所在の幕末維新期横浜に関する原資料の所在確認・調査・分析 ②幕末維新期の専門研究者による研究報告会の開催 ③幕末維新期の横浜について多方面から分析をおこない、『論集』のかたちで報告

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

（１）常設展示室（想定観覧者数 30,500人）

常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマー」の維持管理を行います。当館から界限の観光地への回遊性を高めるため、**常設展示室を出発点として周辺エリアをめぐる多言語ウェブコンテンツの制作・導入を進めます。**

拠点計画事業により旧館内の展示を新設することに伴い、**従来の企画展示室を常設展示室の延長（展示室3）として、また小規模な企画展示が可能な展示室として活用するため、展示空間のリニューアル検討を進めます。**

（２）旧館の活用

開港記念日を中心に6月を「開港月間」として、旧館1階の記念室（旧英国総領事執務室）を特別公開するとともに、記念ホールを活用したパネル展示等、旧館の施設を活用した普及事業やイベントを実施します。



旧館記念ホール

（３）中庭の活用

横浜の歴史のシンボルである「**たまぐすの木**」、及び中庭に設置している展示パネルを通じて、開港資料館の施設が建つ「**横浜開港の地**」の歴史について、来館者に広く伝えます。また「**たまぐすの木**」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、昨年度に策定した「**たまぐすの木**」の基本管理計画に基づき、適切なメンテナンスを実施します。



たまぐすの木

（４）ミニ展示コーナー

常設展示室にミニ展示コーナーを設けて、新たに寄贈・寄託された資料や、話題性のある館蔵資料を定期的に紹介します。（展示テーマ：関東大震災 100 年など）

（５）展示等事業の広報、情報発信

項 目	内 容
広報誌発行	カラー版でリニューアルした館報「開港のひろば」（A4判、12頁）を発行します。（年２回予定）
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成します。
広報	・みなとみらい線日本大通り駅構内の案内看板による広報 ・新聞・雑誌・ラジオ等メディアへの記事掲載・話題提供・出演による広報 ・当館ホームページやメールニュース、展示情報掲載サイト等への情報掲載による広報 ・SNSを活用した情報発信 ・リリース配信サービスを利用した幅広い層へのPR ・外部企業と協働した戦略的な広報の展開 ・市内観光案内所、ホテル、横浜市PRボックス、小中高等学校、大学等へのチラシ配布

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）企画展の実施

* 基本観覧想定数は、新型コロナウイルス感染症が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数を想定

企画展名称 ／開催期間	基本観覧 想定数	目的・内容
「関東大震災 100 年 大災害を生き抜いて—横浜市民の震災体験—」（仮） 令和5年8月26日（土） ～12月3日（日）	7,000 人	1923（大正12）年9月1日午前11時58分、神奈川県を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生、南関東一帯は激しい揺れに襲われました。その直後、横浜では大火災が発生し、市街地は僅か一日で焼け野原となります。そうしたなかを生き抜いた横浜市民は、自らの体験を日記や回想記、写真に残していきました。本展示では、横浜の関東大震災を、残された個人の記録を中心に再現していきます。 * 都市発展記念館との合同開催。

（2）講座・講演会ほか

項 目	目的・内容
企画展関連講座・講演会の実施	企画展の開催にあわせて、外部講師を招いての講座・講演会や、見どころをわかりやすく紹介する展示解説を実施します。
連続講座の開催	当館の調査研究員がそれぞれの専門分野から研究の最前線を紹介する「連続講座2023」を開催します（年5回）。講座は対面で実施するほか、有料でのオンライン配信も行います。
写真パネル展の開催	市庁舎展示スペースなどを利用して関東大震災100年関連の写真パネル展を開催します。 * 都市発展記念館との連携事業
オンラインツールを活用した普及事業	YouTubeチャンネルでの解説動画の制作・公開を通じて、横浜の歴史や館蔵資料に関する情報発信を行います。
市民団体との共催事業の実施	市民団体と共催事業で講座やガイドツアー等を実施します。 実施予定：関東大震災100年をテーマとした、横浜シティガイド協会との連携ガイドツアー
大学・研究機関等との連携事業	大学・研究機関等との連携事業として、共同の調査研究事業に基づいた講座・講演会・シンポジウム等を実施します。

（3）出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展などの資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布します。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷します。

<出版予定>

- ① 館報「開港のひろば」155号、156号の発行

② 研究紀要の発行 『横浜開港資料館紀要』第39号

紀要については、電子媒体（PDF）による公開準備を進めます。

③ 企画展関連の出版物・印刷物の発行

『新装改訂版 関東大震災と横浜』（8月発行予定、都市発展記念館との共同編集）

（４）資料閲覧室の運営

閲覧室において、原資料もしくは複製本の形で収蔵資料を一般閲覧に供し、横浜の歴史及び資料に関する一般からの問い合わせに対して、専門職員によるレファレンス・サービスを行います。

（５）複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じて、所蔵資料の複製（デジタルデータ）を提供します。これにより資料情報の発信を促進します。

利用目標件数 400 件 / 利用目標資料点数 1,200 点

（６）市民協働・学校連携・博物館連携 他

（ア）横浜郷土史団体連絡協議会の活動への支援

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるよう、当館が中心となって設立した**横浜郷土史団体連絡協議会（現在、市内 40 団体）**とともに、協働事業（講座・研修会等）を展開していきます。事務局は当館と歴史博物館の職員が担当します。

（イ）学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体、ボランティアガイド団体等との協働事業

地域事業者の団体（山下公園通り会、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会等）との連携事業として、毎年5月下旬に開催される**ハマフェス（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）**に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加して、**地域の賑わい創出に貢献**します。当日は無料開館とし、資料館活動への理解促進と来館者増を図ります。

（ウ）主要な高等学校との連携として、神奈川県内の公立高等学校の社会科関連のクラブによって構成される**神奈川県高等学校文化連盟（神奈川県高文連）**の社会科専門部会と提携し、展示見学の受け入れ、研究会場の提供、研究活動への助言等を行います。

（エ）広報よこはま中区版で連載中の「中区歴史の散歩道」のほか、広報よこはま市版連載「よこはま彩発見」、広報よこはま保土ヶ谷区版連載「保土ヶ谷区のあゆみ」等の執筆を通じて、市役所や各区との連携・協力を進めていきます。また、横浜港振興協会とは同会機関誌に横浜の歴史に関する記事を掲載するなど関係を強化します。

（オ）首都圏形成史研究会などの学術団体と連携します。

（カ）神奈川県博物館協会や神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会など業界団体と連携します。

（７）外部組織への資料提供および助言・監修

（ア）マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局・ラジオ等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供・出演を行います。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料提供するとともに、その作成物について助言・監修を行います。

(8) 学芸員実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れます。受入数：8名

(9) 各種情報のホームページ・SNS などによる発信等

(ア) ホームページ・SNS による情報発信

ホームページや公式 Twitter を通じて、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、企画展示や講座、出版、イベントなど、最新の資料館情報を提供します。あわせて所蔵古文書の目録を順次ホームページで公開します。

アクセス目標件数 120,000 件

(イ) メールニュースによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者にメールニュースで発信します。

発信先：約 1,400 件

(ウ) O P A C による蔵書（新聞・雑誌も含む）検索機能、及びイントラネットによる他機関データベースへのアクセス・閲覧機能の充実を図ります。



ツイッターでの情報発信



YouTube での解説動画



市民団体との連携ガイドツアー

5 旧館活性化事業

開港資料館にとって館蔵資料と並び重要な歴史資産である旧館（旧英国総領事館）及び旧門番所の建物（いずれも横浜市指定文化財）を、関内エリアのあらたな文化観光拠点としてより幅広く活用していくために、総合的な再整備計画を実施します。多様な来館者を受け入れることを前提に、施設の復元・改修やバリアフリー化、案内サインの改修や花壇の整備など、幅広い視点で整備を進めます。

(1) 旧館の整備工事

令和4年度に実施した旧館（旧英国総領事館）の耐震診断と保存活用実施設計に基づいて、耐震補強工事および外観復元（外壁・屋根の補修を含む）工事を実施します。あわせて旧館内に整備する展示設計と連動した内装復元の検討を進めます。

(2) 外構計画の検討

上記と連動する外構部分の工事に関して、令和3年度に実施した敷地南側外構部分のスロープ設置を踏まえて、引き続き、植栽・案内サイン等の整備計画を検討します。

（３）旧館を活用したイベントの実施

記念室（旧英国総領事執務室）の特別公開をはじめ、記念ホールを活用したパネル展示、旧館をラリーポイントとしたデジタルスタンプラリーへの参加など、歴史ある旧館の雰囲気を活かした各種イベントを実施します。

ユーラシア文化館・都市発展記念館との連携事業として毎年秋に実施しているスタチュー・ミュージアムは、両館の休館で実施しませんが、5月下旬に開催されるハマフェス Y164 では、両館および当館内、日本大通り、山下公園通りなどを会場に、小規模なスタチュー・ミュージアムを開催します。またスタチューパフォーマンス協会の協力を得て、日米和親条約締結 170 年に向けたペリー像のスタチュー製作のためのクラウドファンディングを実施します。



旧館記念ホールでの
スタチュー・パフォーマンス

（４）中庭の整備

横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、昨年度に策定した「たまくすの木」の基本管理計画に基づき、横浜市関係部局とも連携しながら、適切なメンテナンスを行います。

6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

施設の老朽化が進んでいるため、優先度の高い改修項目を見極め、今年度着手予定の旧館改修工事を含む、上記の旧館活性化事業と連動しながら、計画的な修繕を実施することで施設の保全を図ります。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（１）ミュージアムショップ・カフェの経営

拠点計画事業において、これまで新館の受付で営業していたミュージアムショップを、カフェとコンシェルジュの2つの機能を加えた新たな施設「PORTER'S LODGE」として、旧門番所にオープンします。展示図録、資料目録、研究紀要、関連図書、グッズ等の販売に加え、館蔵資料をモチーフとして、横浜の歴史や地域にまつわる新たな魅力ある商品を開発、提供します。また、昨年度に引き続きオンラインショップを活用し、販路の拡大と売上の向上を見込みます。



旧門番所「PORTER'S LODGE」

（２）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、敷地内に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売します。

8 拠点計画推進課事業

令和3年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、補助金の交付対象として次の「横浜開港資料館文化観光拠点化推進事業」を実施します。（下線部が文化庁の補助金対象事業です）

（1）「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業

令和4年度に完成したβ版をベースに一般公開可能なデジタルアーカイブの一般公開版の構築とコンテンツの作成を中心に以下の事業を実施します。①観光活用を前提としたデジタルアーカイブの構築／②デジタルアーカイブ用高精細画像の作成／③収蔵資料目録・レファレンスデータのデジタル化



令和4年度に完成したデジタルアーカイブβ版

（2）旧館展示「横浜開港の記憶」制作・英国総領事館復元事業

旧館2階への展示新設にあたり、基本設計・実施設計を行います。令和4年度に作成した旧館の保存活用計画に基づき、英国総領事館時代の外観を復元する工事を実施します。

①旧館各室の展示実施設計／②「旧英国総領事館」の復元工事／③旧館展示の基本構想に関するアンケートの実施

（3）旧英国総領事館レクチャーツアー事業

（7）で制作をすすめる多言語ウェブコンテンツを活用したツアーの企画、共同申請者・民間事業者が企画するツアーの実施に協力します。

①（7）で制作した多言語デジタルウェブコンテンツとの連動ツアーの検討／②共同申請者・民間事業者が企画するツアーへの対応

（4）オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業

所蔵資料を紹介する動画を制作し、YouTubeのチャンネル等で公開します。また、これまでに公開した動画について、分析機能を使用してアクセス状況等を把握します。

①オンラインコレクション解説撮影・編集／②配信済映像のアクセス状況の分析

（5）旧英国総領事館夜間公開事業

令和4年度に引き続き、民間事業者等が企画するライトアップイベントへ参画し、SNS等を通じその魅力を発信し夜間帯の施設利用を進めます。

①共同申請者や民間事業者が実施するライトアップ企画への参加とSNSを通じた情報発信

（6）旧英国総領事館フォトジェニックスポット推進事業

令和4年度に検討した撮影に関する行為許可申請について所管課との協議を進めます。

①各種の撮影規定類の公開に向けた自治体との協議

（7）多言語デジタルウェブコンテンツ整備公開事業

令和4年度に制作した、開港資料館の展示室から横浜中華街へと案内する多言語ウェブコンテンツに引き続き、山下公園または元町商店街への案内コンテンツを制作します。

①多言語ウェブコンテンツの制作／②対象コンテンツの検討・作成

(8) 訪日客に対応する多言語ウェブサイトの再構築事業

財団施設全体のウェブサイトリニューアルに向け、開港資料館ウェブサイトや(7)で制作する多言語ウェブコンテンツの在り方を検討します。

①ウェブサイトのリニューアルに向けた打合せ(コンテンツ精査・サーバー環境・仕様検討)

(9) 横浜伝統的観光地時空文化観光ウェブコンテンツの開発事業

令和4年度に制作した、開港資料館の展示室から横浜中華街へと案内する多言語ウェブコンテンツに続き、山下公園または元町商店街への案内コンテンツを制作します。(再掲)

①(7)と連動し、対象エリアのコンテンツ(口述調査・テキストデータ・動画データ等)の作成

(10) 伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業

令和3～4年度に改修・新設した横浜中華街の案内板を活用したツアーの企画を進め、民間事業者による実施を支援します。

①共同申請者・民間事業者が企画するツアーへの対応

(11) 「横浜開港」資料の商品化事業

令和4年度に完了した複合機能施設「PORTER'S LODGE」の開店、営業に向け、オリジナル商品開発、歴史資料の画像活用に向けたコンテスト等の開催企画を進めます。

①商品開発促進施策としてのコンテストの実施／②文化観光拠点施設としての商品ブランドの検討

(12) 「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業

令和4年度に完了した複合機能施設「PORTER'S LODGE」を開店します。

①複合機能施設「PORTER'S LODGE」の開店・営業



横浜開港資料館「PORTER'S LODGE」

(13) 野外ミュージアムPR事業

民間事業者が実施するデジタルスタンプラリーなどへ参画し、開港資料館や近隣の施設の回遊状況の把握などを進めます。また次年度以降に開催を計画する第4回「スタチュー・ミュージアム」について、内容を検討します。

①共同申請者・民間事業者が企画するイベントへの参画を通じたデータ収集／②第4回「スタチュー・ミュージアム」の検討

(14) 「横浜開港」プロモーション戦略事業

拠点計画に基づく各事業や開港資料館に関する情報を発信するための広報・プロモーション活動を実施します。

①共同申請者や周辺民間事業者との連携体制の構築

(15) 公衆 Wi-Fi 情報通信機器環境整備事業

令和 3～4 年度に設置した公衆 Wi-Fi に関し、利用者の接続状況を確認し、今後の増設等に関する検討を行います。

①設置済み公衆 Wi-Fi 回線の利用状況の調査

(16) 旧英国総領事館等再整備事業

(2) と連動し、旧館の外観復元工事・バリアフリー工事を進めるとともに、次年度以降に予定している内装の復元の検討を進めます。

①「英国総領事館」の復元工事／②横浜開港資料館旧館のバリアフリー化工事

4 都市発展記念館事業

〔取組の全体像〕

横浜都市発展記念館では、昭和期の横浜の歴史を中心に資料収集、調査研究、企画普及等の事業を進めてきました。今年度は全館の空調設備更新工事に伴い、6月から長期休館に入りますが、休館中もアウトリーチ事業を積極的に進めるとともに、ホームページやSNSを活用したオンラインコンテンツの発信を軸に、着実に各事業を進めていきます。引き続き地域の事業者と連携しながら、日本大通り地区や山下町一帯の賑わい創出に貢献していきます。

企画展事業では、横浜開港資料館を会場として同館との共同開催で特別展「関東大震災100年 大災害を生き抜いてー横浜市民の震災体験ー」（仮）を開催します。2013（平成25）年に開催した関東大震災90年の特別展から10年が経ち、この間のあらたな資料収集と研究成果を踏まえて、当時の横浜市民が残した記録を中心に、人々が体験した未曾有の大災害を振り返ります。あわせてアウトリーチ展示として、横浜市庁舎の展示スペースなどを利用して、関東大震災100年の写真パネル展を開催します。

常設展事業では、長期の休館期間を利用して、展示の一部リニューアルの検討を進めるとともに、デジタルサイネージのコンテンツとして都市発展記念館の魅力を伝える広報動画の制作を進めます。

資料収集保管事業では、戦後の映像資料「神奈川ニュース」の公開を拡大するとともに、当館の重要な戦後写真コレクションである五十嵐英壽氏、奥村泰宏氏、常盤とよ子氏の撮影写真についても、ホームページでの画像公開を進めます。

調査研究事業では、2025（令和7）年の戦後80年に向けて、開港資料館・市史資料室・埋蔵文化財センターと連携して、横浜の戦中・戦後占領期における歴史を多角的に明らかにする調査研究プロジェクトを立ち上げます。

なお、工事期間中は空調の停止により、館内での資料保管、職員の執務ができないため、収蔵資料は歴史博物館の収蔵庫に移転保管し、職員は開港資料館と歴史博物館に分かれて執務を行います。事業の推進にあたっては、情報共有を密にして業務に取り組んでいきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用して資料画像・映像資料の公開を進めます。

（1）資料の収集と保管

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館・市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れます。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料を収集します。

複製による資料収集	原資料で収集できないものをデジタル撮影・マイクロフィルム撮影等により収集します。
資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行います。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管します。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管します。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理します。 工事期間中は、歴史博物館収蔵庫に資料を移転保管します。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユーラシア文化館と共同して定期的に行います。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努めます。

(2) 資料の整理・公開

収集した資料はそれぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成します。また、館蔵資料から絵葉書・写真・地図・ちらしなど画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」「地図データベース」や「横浜歴史情報マップ」などで積極的に公開します。映像資料では、引き続き、YouTube チャンネルで戦後のニュース映像「神奈川ニュース」の公開を進めます。

将来的なデジタルアーカイブでの活用に向けた作業として、引き続き、当館の重要な戦後写真コレクションである五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子の撮影写真の画像資料目録を作成し、ホームページで写真画像の公開を進めます。

(3) 複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じます。



横浜地図データベース



「神奈川ニュース」セレクション

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期の横浜の歴史を中心に、都市形成史、都市経済産業史、都市生活・文化史等の分野に基づく調査研究を行い、その成果を事業に活用します。（1）は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集を目的とし、（2）は財団諸施設や外部研究者との連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用します。

（1）調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 （2／2年次）	関東大震災後から第2次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにします。	企画展示「関東大震災 100 年 大災害を生き抜いてー横浜市民の震災体験ー」（仮）を横浜開港資料館と合同で開催します。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 （2／4年次）	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにします。	都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橘樹郡の村々）について基礎的な調査を進めます。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 （2／4年次）	京浜工業地帯の形成と、工業地帯形成に伴う鶴見・川崎、神奈川地域の諸動向について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにします。	2027（令和9）年の神奈川区・鶴見区の区制 100 年を見据えつつ、文献資料・画像資料等の調査を進めます。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 （2／4年次）	市域での近代建築の遺構及び出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにします。	市域での出土遺物のうち、山手133番地出土遺物について、引き続き、記録化と内容分析を進めます。
横浜地図データベースの構築 （2／3年次）	過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進め、体系的なデータベースを構築します。	地図の高精細デジタル画像のデータベース拡充を継続する。成果はホームページ「横浜地図データベース」等にて公開し、連携研究事業③の基礎資料とします。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 （2／4年次）	昭和期を中心に（1）横浜の都市観光およびその宣伝、（2）都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察します。	観光・旅行関係資料（個人コレクションより絵葉書・紙票類、ホテルニューグランド所蔵資料等）の整理と分析、映像資料（横浜市広報動画等）のデジタル化と分析を行います。

(2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設および外部研究者との連携研究を実施します。

① 戦後 80 年記念事業に向けた連携研究事業

戦後 80 年（2025 年）に向けて、横浜の戦中・戦後占領期における歴史を多角的に明らかにする研究事業を、都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターと連携して進めます。2025 年の企画展示に向けて、各施設が所蔵する戦争関係資料や戦争遺構についての調査を進めます。

② 外部研究者との連携研究事業

2.1 中山恒三郎家文書の活用事業

都筑区川和町の旧家・中山恒三郎家の資料整理を、開港資料館・歴史博物館と連携して進めるとともに、パネル展や講演会などの連携事業を企画してその成果を公開します。

2.2 京浜移住者に関する基礎的研究

公衆浴場を経営する地方出身者に注目し、移住者の出身地の研究者および開港資料館・歴史博物館と連携しながら、京浜地域における同郷者集団の形成過程を、歴史学・民俗学・考古学の手法から複合的に分析します。本年度は紀要にこれまでの研究成果をまとめます。

2.3 建築家中村順平に関する基礎的研究

横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学工学部建築学科）の主任教授を務めた建築家中村順平に関する資料の収集・整理および関係者へのヒアリング調査を、外部研究者と連携して実施します。

③ 都市横浜「歴史空間」復元への調査研究事業

絵地図、写真、浮世絵、絵葉書、映像などの画像資料を主として、統計・文献資料などの各種歴史資料も用いて、近代都市（幕末～昭和期）の地理空間を GIS によって復元します。加えて、横浜市域の地図の資料研究も実施します。都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館と連携して実施します。

(3) 研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第 18 号を発行します。

紀要については、電子媒体（PDF）による公開を順次実施します。

3 常設展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

(1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理を行います。（想定観覧者数 4,000 人）

(2) 「旧横浜市外電話局」の積極的な公開・活用を行います。

歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした展示・集客事業を展開します。また無料開館日のイベントとして、普段は入れない箇所の見学を含めた館内ツアーを実施します。

*今年度は休館につき実施しません。

(3) 常設展示室の一面を使って、**新収蔵資料や話題性のある館蔵コレクションを中心としたコーナー展示**を開催します。

＊今年度は休館期間を活用して、常設展示室内に新規設置予定のコーナー「関内の基軸・日本大通り（仮）」の内容検討を行います。

(4) 昨年度に実施したドローン撮影による映像素材などを活用し、**デジタルサイネージのコンテンツとして、施設入口や常設展示等で発信する広報動画の制作を進めます。**

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 企画展

展示名称（仮称）／開催期間	総定観覧者数	目的・内容
「関東大震災100年 大災害を生き抜いて—横浜市民の震災体験—」（仮） 令和5年8月26日（土）～12月3日（日）	7,000人 ＊開港資料館での想定観覧者数	1923（大正12）年9月1日午前11時58分、神奈川県を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生、南関東一帯は激しい揺れに襲われました。その直後、横浜では大火災が発生し、市街地は僅か一日で焼け野原となります。そうしたなかを生き抜いた横浜市民は、自らの体験を日記や回想記、写真に残していきました。本展示では、横浜の関東大震災を、残された個人の記録を中心に再現していきます。 ＊令和5年度は6月以降休館に入るため、開港資料館との共催で、開港資料館を会場として実施します。

(2) 普及啓発

項 目	目的・内容
月イチ講座	ユーラシア文化館と共催で、新収資料や最新の調査成果などを紹介する講座を1階ギャラリーで開催します。 ＊今年度は休館につき実施しません。
連続講座の実施	休館中のアウトリーチ事業として、開港資料館の講堂を会場として関東大震災100年関連の連続講座を開催します。
オンラインツールを活用した普及事業	Twitterでの資料紹介やYouTubeチャンネルでの解説動画の制作・公開を通じて、展示内容や収蔵資料に関する情報を発信します。
写真パネル展の開催	休館中のアウトリーチ事業として、市庁舎展示スペースなどで、関東大震災100年関連の写真パネル展を開催します。 ＊開港資料館との連携事業

ワークショップの開催	活動支援ボランティアの参加を得て、企画展や昭和の時代に関連したワークショップを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
------------	--



アウトリーチ展示



SNSを活用した情報発信

(3) 集客イベント

項 目	内 容
ハマフェスY164 (旧横浜セントラルタウンフェスティバル)	5月下旬に開催されるハマフェスY164にユーラシア文化館・開港資料館とともに参加し、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わい創出と来館者増を図ります。 同日は、館内、横浜開港資料館、日本大通り、山下公園通りなどを会場に、小規模な「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」を開催します。 *ユーラシア文化館、開港資料館との連携事業
大道芸	今年度は休館のため、秋の「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」は開催できませんが、令和6年の日米和親条約締結170年に向けたペリー像のスタチューを製作するためのクラウドファンディングの実施を計画しています。 *ユーラシア文化館、開港資料館との連携事業
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
開館祭	ユーラシア文化館との共催で、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。

(4) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および開館記念イベント等の機会に、活動支援ボランティアの参加を得て、各種ワークショップを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
市民団体との共催事業の実施	市民団体との共催事業として、講座やガイドツアー等を実施します。 実施予定：関東大震災100年をテーマとした、横浜シティガイド協会との連携ガイドツアー

(5) 地域・行政との連携

項 目	目的・内容
地域事業者との連携	・日本大通り界限の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出及び横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致を図ります。 ・山下公園通りの事業者が加盟する山下公園通り会の事業に参加し、山下町周辺の賑わい創出および横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致を図ります。
区役所・市役所が実施する事業への協力	・中区に関する歴史資料を紹介する記事を「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で連載します。 ・広報よこはま市版コラム「よこはま彩発見」の記事連載に協力します。 ・区政 100 年（2027 年）に向けて、広報よこはま ほ도가や区版連載「保土ヶ谷区のあゆみ」の記事掲載に協力します。

(6) 学校連携

項 目	目的・内容
市内学校団体見学の受入	小学校 4 年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致します。 *休館期間中は実施しません。
教員向け研修の企画	小学校の教員を対象に「吉田新田とその後」（4 年生）「横浜市の移り変わり」（3 年生）をテーマとした研修を企画、実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
学校連携事業	財団のエducator、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、学習指導に適した教材などのレファレンスを行います。

(7) 広報活動

項 目	内 容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行します。(第39号 10,000部) * 関東大震災100年の特別展にあわせて発行予定です。
印刷物作成	企画展示案内(ポスター・チラシ)、「催し物案内」(リーフレット)を作成します。 * 今年度は休館につき実施しません。
ホームページの運営	ホームページを利用して最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開などを行います。 アクセス目標件数 30,000件
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内をメールで配信します。
SNSによる情報発信	公式Twitterを活用して、館の魅力や資料案内、職員の活動などを日常的に発信します。
デジタルサイネージによる 広報動画の配信準備	デジタルサイネージのコンテンツとして、都市発展記念館の魅力をアピールする広報動画の制作を進めます。
マスコミ対応	・放送(テレビ、ラジオ等)、新聞・雑誌(タウン誌などを含む)の取材対応と情報を提供します。 ・フィルムコミッションに協力します。 ・広告の掲出(新聞・雑誌、地下鉄車内など) 新横浜駅でのデジタルサイネージ広告の継続します。
外部機関との提携	・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置します。 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへ印刷物を配布します。 ・観光・地域振興等関連団体へ参加します。 日本大通り活性化委員会・山下公園通り会での活動、ハマフェスY164などへの参加

(8) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を4名受け入れます。 * 今年度は休館につき実施しません。
職場体験	市内中学生の職場体験を受け入れます。 * 今年度は休館につき実施しません。

5 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

これまでと同様に適正な維持管理に努めていきます。

令和5年度は空調設備更新工事（長寿命化工事）の実施が予定されており、横浜市教育委員会・横浜市建築局と調整のうえ、適切に進めていきます。

あわせて休館期間を利用して3階企画展示室の内装工事を実施し、展示環境の整備を進めます。

6 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵資料の複製等の販売を行います。オンラインショップとSNS(Twitter・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させることで、収益の向上を図っていきます。

＊休館中はオンラインショップのみとなります。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売します。

＊休館中は販売を停止します。

5 ユーラシア文化館事業

〔取組の全体像〕

ユーラシア文化館は、「横浜で世界とつながる」をコンセプトに、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査、研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

6月以降全館空調設備更新工事に伴い長期休館となりますが、アウトリーチを積極的に行い、民間団体等と連携しながら、出張展示を開催していきます。

調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進めていきます。

ユーラシア文化に関わる市民向け講演会を開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める活動を実施します。休館中は、財団他施設と連携して館外での普及活動に努めるほか、地元諸団体と連携し、街を舞台とする「街に出ていく博物館」として、横浜とユーラシア地域の歴史と文化の普及に資する事業を推進していきます。

なお、工事期間中は空調の停止により、館内での資料保管、職員の執務ができないため、収蔵資料は歴史博物館の収蔵庫に移転保管し、職員は開港資料館と歴史博物館に分かれて執務を行います。事業の推進にあたっては、情報共有を密にして業務に取り組んでいきます。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料収集・保存

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守ります。
資料購入	展示で活用しうる資料や調査研究に資する資料を収集します。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管します。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理します。 工事期間中は、歴史博物館収蔵庫に資料を移転保管します。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充します。

(3) 文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続します。整理が終わったものから順次公開していきます。

項 目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書 ・洋雑誌・和図書	蔵書の分類を継続します。
寄贈及び購入の図書、雑誌	書誌データを入力し、データベースを構築します。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充します。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

(1) 調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
ユーラシアにおける 工芸品の研究 (1/5年)	中央アジアの陶器やガラスなどの工芸品の歴史とそこに関わる人々や日本との関係について研究します。	・国内博物館等で所蔵するウズベキスタンの陶器やガラス資料を調査します。 ・中央アジアの伝統技術に関する情報を収集します。
ユーラシアの東西交流の研究(3/3年)	14世紀後半以降の東西交流の歴史を探ります。	モンゴル等遊牧民の歴史や生活文化に関わる資料を調査します。
ユーラシアにおける 芸能の研究 (3/3)	ユーラシア大陸における大道芸やサーカスなどの歴史について、日本列島との関係も考慮しつつ、広い視野での研究を行います。	・国内施設が所蔵するサーカス・芸能関連資料の調査を行います。 ・スタチュー芸をはじめとする、各種の演目の歴史について先行研究を調査します。
ユーラシアにおける 人形製品の研究(3/5)	宗教や儀礼に関わる遺物として注目されてきた人形製品（土製品・石製品等）について、比較考古学的な観点からの研究を行います。	・財団機関が所蔵する人形製品を調査します。 ・国内機関に所蔵されているユーラシア各地出土の人形製品の情報を収集し、調査します。
北方ユーラシア文化 の研究(1/5年)	ユーラシア大陸の北方地域に展開した文化について、広域的な比較研究を行います。	・他機関が所蔵するオホーツク文化の資料調査を行います。 ・アラスカなど極北地域の文化について先行研究を調査し、国内機関の所蔵する資料の情報を収集します。

ユーラシア概念をめぐる研究（3／5年）	「ユーラシア」の概念や、ユーラシア諸地域の文化交流について研究会を開催し、その理解を深めます。 歴史博物館との連携事業	・両館学芸員を中心に、2回程度の研究会等を開催します。 ・研究会の成果を紀要等に公開します。 ・東ユーラシアの帯金具に関するシンポジウムを開催します。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（2／5）	横浜に暮らす様々な国籍や民族の人びとの歴史、風俗などに付いて研究し、市民の多文化共生への理解を促進します。	・個人・機関が所蔵する関連資料を調査します。 ・令和6年度横浜仁川パートナーシップ都市15周年を記念し、チマ・チョゴリに関する企画展を計画しています。市内のコリアン系市民の服飾文化及び仁川でのチマ・チョゴリ関連資料の調査を実施します。 ・研究成果を展示や館の広報物で発信します。
ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（1／5）	中国・北アジア・中央アジア・マンチュリアなどユーラシア大陸東部の諸地域と、古代・中世日本との政治的・文化的関係について研究します。	・日本で出土した渤海の帯金具から東ユーラシアの国際関係に論究するシンポジウムを実施します。 ・古代・中世日本の北方交易について検討します。
令和6年度以降開催予定の企画展調査	令和6年度以降の企画展開催のために資料調査などを行います。	【再掲】 令和6年度横浜仁川パートナーシップ都市15周年を記念し、チマ・チョゴリに関する企画展を計画しています。市内のコリアン系市民の服飾文化及び仁川でのチマ・チョゴリ関連資料の調査を実施します。

（2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行うとともに、順次資料画像などをデジタルアーカイブズで公開します。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

- （1）令和5年度は、6月以降休館のため、4月から5月までの2か月間について、常設展示室の維持管理を行います。（基本観覧想定数 4,000人）
- （2）ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行います。
- （3）クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画します。

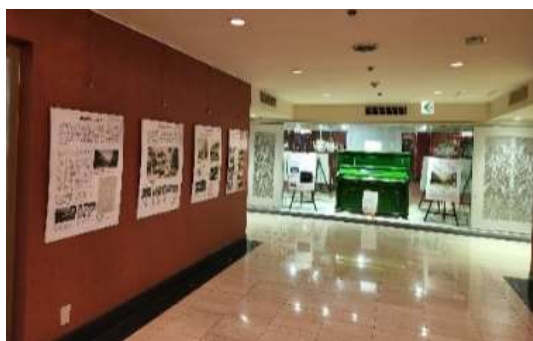
- (4) 常設展示室を活用し学校との連携を試行的に行っていきます。また、グローバル人材育成として、教育委員会の進める高校生のグローバル人材育成プログラムに協力していきます。
- (5) 月イチ講座に関連した資料の展観、研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行います。
- (6) 都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげます。
- ＊(2)～(6)は休館につき実施しません。

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

(1) 企画展

今年度はアウトリーチ活動として、市庁舎展示スペースや市内の民間施設などでの出張展示を計画しています。

企画展名称 ／開催期間	基本観覧想定数	目的・内容
アウトリーチ展示 「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」 令和5年1月以降当面の間 横浜開港資料館との連携事業	—	中華街初の常設歴史スペースとして、開港から現在までの160年の歴史をパネルで紹介しています。ローズホテル横浜の2階廊下を利用し、7時から21時まで無料で一般公開を行っています。
アウトリーチ展示 「私の撮ったスタチュー・ミュージアム」 令和5年11月頃	—	令和4年11月に実施したスタチュー・ミュージアムの写真を一般募集し、市役所ホールでの実施を予定しています。
アウトリーチ展示 「横浜中華街の歴史と文化」 (仮称) 令和6年2月頃 横浜開港資料館との連携事業	—	横浜市役所ホールでの実施を予定しています。中華街の歴史文化の普及と当館の周知を図ります。



ローズホテル横浜で実施中の「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」

(2) 講座・講演会等

項 目	内 容
東ユーラシアの帯金具と古代日本（仮称）	大津市の穴太遺跡出土の金銅製花文帯金具を題材に、渤海と古代日本の交流をテーマとする一般参加のシンポジウムを、開館20周年事業として開催します。
動画・SNS等の発信について	Twitterアカウント（2019年10月～）およびYouTubeチャンネル（2020年3月～）、Facebook（2021年4月～）を通じた情報発信を行います。

(3) 普及啓発

項 目	参加者目標数	目的・内容
ゲルに集まれ@三殿台 三殿台考古館との連携事業	1回実施(50人)	三殿台遺跡において、モンゴルの移動式住居であるゲルの組立・解体を行います。 遊牧生活に関する解説などを通して、モンゴル民話「スーホの白い馬」を学ぶ小学2年生をはじめ、多くの市民に異文化の体感と、理解を深めていただきます。 協力：日本モンゴル協会、活動ボランティア。
写真展・写真パネル展の開催	—	市役所ホールなどで写真展などを開催し、ユーラシアへの興味・関心を定着させます。
近隣企業との連携	—	横浜中華街や日本大通りの店舗とタイアップし、広報活動の充実と連携企画を実施していきます。

(4) 集客イベント事業

項 目	内 容
ミニコンサート、大道芸 開港資料館・都市発展記念館との連携事業	本年度は休館のため、秋の「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」は開催しませんが、市役所展示スペースで写真等の展示を行うことを検討しています。 また、令和6年の日米和親条約締結170年に向け、クラウドファンディングを実施してペリー像のスタチュー（人間彫刻）を製作します。これらはスタチューパフォーマンス協会の協力で実施します。
ハマフェスY164(旧横浜セントラルタウンフェスティバル) 開港資料館・都市発展記念館との連携事業	5月27日（土）・28日（日）に関内・日本大通り・中華街・元町で大規模に開催されるイベントに参加し、無料開館・スタンプラリーを実施します。また同日、館内、開港資料館、日本大通り、山下公園通りなどを会場に、小規模な横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを開催します。

「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
開館祭	都市発展記念館と連携して、3月15日の開館日前後に全館無料の感謝イベントを実施します。 *今年度は休館につき実施しません。
近隣イベントへの参加	日本大通りなどで開催されるイベントに参加し、当館の認知度アップと集客に努めます。

第3回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを令和4年11月20日・21日に実施しました。日本大通り会場に加え、中華街会場に横浜中華街発展会協同組合による新作オリジナルスタチュー、兵馬俑1号・2号を設置しました。



(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	従来のワークショップ・各種イベント等に加え、市民ボランティアが幅広く館活動に協働で参加できるように検討・試行を行います。

(6) 近隣施設との連携

項 目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携を行い、来館者の相乗効果を図ります。 *休館中は実施しません。

日本大通り活性化委員会・山下公園通り会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会と山下公園通り沿いの事業者が加盟する山下公園通り会の事業に参加し、日本大通りおよび山下町周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図ります。
横浜中華街発展会協同組合との連携	スタチュー・ミュージアムの実施や、出張展示など行い、観光客の誘致を図ります。
なか区ブックフェスタへの参加	中区の図書館やブックカフェなどが主体となり、10～11月に行われる読書関連イベントに参加し当館の周知を図ります。

(7) 学校連携・大学連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進します。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材とする学校との連携を図ります。 歴史関係で小・中学校との連携も行っています。 *休館中は実施しません。
スーホキットの貸出	モンゴル文化を体験できるように、モンゴル衣装と馬頭琴のキットを小学校等に貸し出します。 *休館中は実施しません。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に則した教員対象の研修を企画、実施します。
大学教育との連携	大学所属の研究者と協働し、講義などに合わせた形で小規模な事業を実施します。

(8) 広報出版・情報発信 *今年度は出張展示の情報を中心に発信します。

項 目	内 容
出版物発行	・研究紀要12号を発行します。PDFによるOnline発行・公開とします。 ・館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」を発行します。 *今年度は休館につき発行しません。
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布します。 *館内では実施しません。
ホームページの運営	ホームページで最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、及び資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンクを行っています。 紀要のバックナンバーをPDFで公開します。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信します。

その他の広報	・インターネットでの施設案内を行います。 ・SNS（Twitter等）による情報発信を行います。 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内を行います。 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPRします。 ・タウン情報誌、旅行情報誌へ施設案内を掲載します。 ・市内観光案内所、観光施設へチラシの訪問配布を行います。 ・スタンプラリー等による集客を行います。
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行います。 ＊今年度は休館につき実施しません。
学校連携事業	エドゥケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行います。

（９）実習生・研修生の受け入れ＊今年度は休館につき受入は実施しません。

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を３名程度受け入れます。
社会研修	大学のインターンシップなどを受け入れます。
職場体験	市内中学生の職場体験を受け入れます。
大学学外研修	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受け入れていきます。

５ 情報事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図ります。

（２）ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握します。

ホームページアクセス目標件数 100,000 件

６ 施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

今年度、空調設備更新工事（長寿命化工事）を実施する予定です。あわせて、開館から20年が経過し、展示室自体も古くなってきているため、展示室内の改修や修繕を行い、展示環境を整備します。

7 収益事業（定款第4条第2項）

（1）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵資料の複製等の販売を行います。オンラインショップとSNS(Twitter・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させることで、収益の向上を図っていきます。

＊休館中はオンラインショップのみとなります。

（2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売します。

＊休館中は販売を停止します。

6 三殿台考古館事業

〔取組の全体像〕

国指定史跡三殿台遺跡は学術的価値が高いだけでなく、市民が参加する発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。現在も市民ボランティアの協力を得て、収蔵された出土品の再整理や遺跡の案内・解説を行っており、当館はこれらの活動を通じて、市民とともに遺構や出土品等を適切に保存・管理し、公開・継承するための拠点となっています。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、前年度に引き続き全イベントの屋外開催という方針を継続しましたが、令和5年度は政府のコロナ対応が変化するなかで、感染防止に十分な注意を払いつつもコロナ前の賑わいを少しずつ取り戻せるよう運営していきます。また、熱中症への対策として盛暑時期のイベントは控えています。が、小学校の見学は学習指導要領の改訂により夏休み前に集中し出しており、健康・安全への対策に十分注意を払って対応していきます。

ホームページや広報紙などのこれまでの情報発信手段に加え、SNSや外部メディアを活用し施設の魅力を伝える情報を公開していきます。

築50余年を経て老朽化の著しい当館では、毎日の清掃など日常管理のほか恒常的に小破修繕を行い、少しでも来館者が満足できる環境を提供します。

1. 来館者の興味と関心に応える三殿台考古館

歴史への関心以外に、散策やフォークデュオゆずの聖地巡礼など来館目的が多岐にわたるため、それぞれのニーズに合った対応を心がけます。

小学校の社会科見学においては、児童の「知りたい・学びたい」を大切にした校外授業を実現するため、見学だけでなく弓矢うちや火起こしなどの体験をとおして、大昔の生活を体感してもらいます。校内事情によって来館が難しい学校には、動画の視聴や出前授業等も可能であることを案内します。なお、見学後にはアンケートをお願いし、可能な限り学校現場の声を日々の活動に活かします。

2. 市民と地域に寄り添う三殿台考古館

岡村のまちをはじめ磯子区・南区には、三殿台考古館を身近に感じていただける方が多数います。地域の方々による散歩やジョギング・乳幼児の遊戯・小学生の遊び等、学習とは異なるコミュニケーションによって、多くの方々との良好な関係を継続していきます。その一環として「ダイヤモンド富士を見る会」「夜景を見る会」等、地域の皆様を対象にしたイベントを立案することで、三殿台を身近に感じていただけるよう努めます。

3. 市民ボランティアと協働する三殿台考古館

三殿台考古館では市民ボランティアの方々により、収蔵されている出土品の再整理や来館者への遺跡案内、体験学習の補助など多くの協力を得ながら運営しています。来館者への対応やボランティア相互の情報交換・体験学習への参加は、自身の技術を向上させ自己啓発に繋がっていきます。市民ボランティアとの協働と育成に努めていきます。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）保管資料再整備事業

（ア）出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着彩、新たな復元等を継続して行い、資料の保全と活用を図ります。三殿台遺跡と周辺部遺跡関係資料の保管スペースを確保し、保管状況を改善します。

（イ）記録資料のデジタル化事業

調査後 60 年以上を経て劣化が著しい記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタルデータ化を実施します。整理後、災害による滅失に備えるためデータを歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管します。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、記録資料のデジタル化を継続します。

（2）調査研究事業

（ア）三殿台遺跡出土品の資料化

三殿台遺跡出土資料のうち、弥生時代中期後葉の遺物と遺構について再整理報告を行います。

（イ）三殿台考古館収蔵資料の活用

館収蔵資料を展示等で公開・活用するほか、貸出等も行います。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）常設展事業

常設展示室の維持管理を適切に行うとともに、来館者の求めに応じた柔軟で理解しやすい解説に努めます。新型コロナウイルス感染症の対策を意識した適切な対応を実践します。

また、老朽化で退色したパネルや解説文を更新し、来館者が見やすい展示を検討します。

（2）露出展示遺構保全事業

（ア）住居保護棟内に露出展示されている、発掘後 60 余年を経た竪穴住居跡の適切な保全を図るため、定期的に文化財保存科学の専門業者に委託し、年 6 回のメンテナンスを実施しています。

（イ）復元住居模型の清掃等日常管理のほか、歴史博物館が実施する「かやぶき屋根プロジェクト」の一環でボランティア団体による茅葺屋根の補修等を実施していきます。

3. 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）企画普及

項 目	目的・内容
「いそっぴGW2023 スタンプラリー」への参加	磯子区の市民利用施設が連携して行うゴールデンウィーク企画事業に参加します。(4/22～5/7)
「子どもアドベンチャーカレッジ2023」への参加	横浜市教育委員会が主催する児童を対象とした夏休み企画への参加を検討します。

三殿台遺跡 整理ボランティア	・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアに整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施します。 ・埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応します。 ・体験学習の補助を依頼します。
三殿台遺跡 ガイドボランティア	・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアに来館者へのガイドに参加してもらい、遺跡の解説を市民協働で実施します。 ・体験学習の補助を依頼します。
一般団体見学の受入れ	歴史グループやウォーキンググループなど、一般団体の見学も受け入れています。希望により解説も受け付けています。
他施設との連携	地区センター・コミュニティハウス等の事業に講師派遣します。
関係団体との連携	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 関東ブロック協議会が主催する「関東考古学フェア」のスタンプラリーに協力します。
施設紹介動画の作成と Web 閲覧の検討	三殿台考古館の魅力を伝える動画の制作を行い、Web 上で公開できるようにする仕組みづくりの検討を継続します。
ホームページの運営 ツイッターの運営	・随時ホームページを更新し、体験学習の情報等を広報します。 ・三殿台考古館の魅力や様々な情報を適宜発信します。
ダイヤモンド富士を見る会 夜景を見る会	ダイヤモンド富士の見学や夜景鑑賞会、天体観測イベント等を計画し、眺望のよい三殿台ならではの魅力を発信します。この期間は閉館時刻を延長します。
どんぐり銀行への参画	落果の時期に、来館する園児や児童の協力でどんぐりを拾い集めてもらい、どんぐり銀行に預け入れます。令和4年度は8,100粒を預けました。どんぐり銀行では預かったどんぐりを苗木に育て植樹し、森林の再生を行うSDGsに貢献しています。
その他の広報	(ア) 体験学習の案内チラシを作成し、周辺小・中学校や市民利用施設に配布します。 (イ) 「PLANETかながわ」等、ネット利用の情報を提供します。 (ウ) テレビ・ラジオ等放送媒体に協力し、施設紹介をします。 (エ) 新聞やタウン紙、市広報紙等に協力し施設案内をします。 (オ) 館リーフレットを近隣施設に配架します。



茅葺き屋根補修（差し茅）



出土品整理作業風景



どんぐり拾い

(2) 体験学習

項 目	目 的 ・ 内 容
ゴールデンウィーク イベント体験教室	ゴールデンウィークに実施する子どもと親子向けの体験教室を「いそっぴゴールデンウィーク 2023」期間中に実施します。 ①5/3 古代人体験教室 対象：小学生 ②5/4 勾玉作り教室 対象：小学生以上 ③5/5 石器作り教室 対象：小学生以上
弓矢うち大会	弓矢うち大会を年に3回実施します。 春：5/13、秋：9/16、冬：12/2
横浜開港記念日 イベント	6/2横浜開港記念日に子ども向けの火起こし体験教室を実施します。
キャンプ in 三殿台	国指定史跡の三殿台にテントを張り家族で一晩過ごして、弓矢うちや火起こしなど古代人の生活を体感してもらいます。 ※令和2年度から中止していましたが、 今年度より再開。 7/22・23 開催
勾玉作り体験教室	9/9 対象：小学生以上
土器作り体験教室	10/ 7、11/4（野焼き） 対象：小学生
土偶作り体験教室	10/ 8、11/4（野焼き） 対象：小学生
土器作り教室	10/14・15、11/4（野焼き） 対象：中学生以上
石器作り体験教室	10/21 対象：小学生以上
火起こし体験	随時受け付け （有料）
勾玉作り体験	5名以上で事前予約 （有料）
弓矢打ち体験	常時無料

(3) グッズ制作

項 目	目 的 ・ 内 容
缶バッジの販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを販売します。
土器片ペンダントの製作・販売	ボランティア活動の一環として製作し販売します。
勾玉作りキッドの製作・販売 (青田石、滑石)	勾玉作りキッドを製作し販売します。販売時に埋蔵文化財センターの勾玉づくり動画を紹介し、作り方のサポートをします。

三殿台遺跡の普及と関連グッズの販売を促進するため、埋蔵文化財センターのホームページにて、「三殿台考古館オリジナルグッズ」を通信販売しています。

(4) 学校連携

項 目	目 的 ・ 内 容
学校団体見学の受入れ	小・中・高・大学による社会科見学を随時受け入れます。 ※幼稚園・保育園の団体利用も受け入れます。
職業体験・職業インタビュー	中学生の職業体験・職業インタビューを受け入れ、キャリア教育を積極的に支援します。
クラブ活動・授業づくり支援	クラブ活動・総合的な学習の時間等の授業づくりを支援します。 とくに隣接する岡村小学校とは複数学年と交流していきます。



土器作り教室体験



キャンプ in 三殿台



岡村小1年生 授業風景

4. 施設維持事業 (定款第4条第1項第1号③)

(1) 三殿台考古館の管理

(ア) 経常的な維持管理

施設内の清掃や復元住居・展示室の清掃を毎日行っています。また、敷地の草刈りと樹木剪定については職員で定期的に実施しているほか、年に数回専門業者に委託しています。磯子区役所と連携してグリーンカーテンの育成に取り組み、地球温暖化対策に貢献します。擁壁や階段・石畳など劣化が著しい部分の補修し、施設内の保全に努めています。復元住居の保守点検や茅屋根の補修などを、市民ボランティアの協力を得て実施します。

(イ) 開館時間の拡大

午前9時から午後5時までを開館とします。(10月～3月は午後4時閉館)

また、ダイヤモンド富士(9月・3月)や夜景を見る会(12月)の期間は閉館時刻を延長し、来館者に三殿台を違う角度から味わっていただきます。

(ウ) バリアフリー化の実現

車椅子やベビーカーでも利用しやすいように、スロープの設置について引き続き設置者と検討・協議を行っていきます。

(エ) トイレの洋式化

トイレの照明をLED化します。また当館のトイレは入口扉がなく、和式で個室面積も極めて狭く利便性に劣っています。学校見学のアンケートでも改善の要望がしばしばみられ、トイレの改修について引き続き設置者と検討・協議を行っていきます。

（２）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、敷地内に自動販売機を設置し、飲料を販売します。

